

Ⅱ. 結果の概要

1. 現在の住まいに対する感じ方

(1) 住宅及び住環境に対する総合評価

① 愛知県及び全国の推移

住宅及び住環境に対する総合評価についてみると、「非常に不満」が3.4%、「多少不満」が26.3%であり、「非常に不満」と「多少不満」を合わせた「不満率」は29.7%となっている。平成15年と比較すると、「不満率」が2.3ポイント減少しており、特に「多少不満」が2.1ポイント減少している。

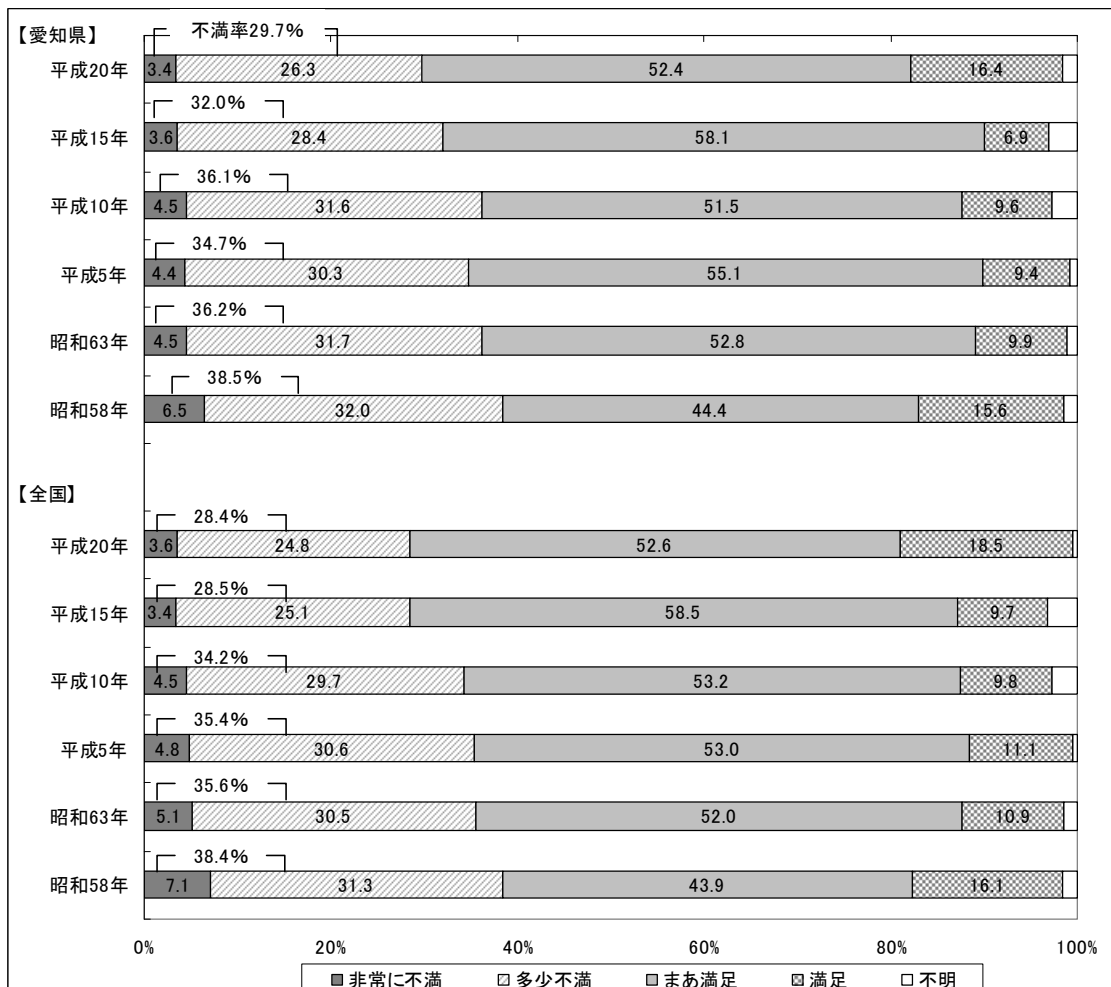
経年的にみると、不満率は昭和58年調査依頼、徐々に減少傾向となっている。

全国と比較すると、愛知県の不満率は全国の不満率を上回っており、その差は平成15年で3.5ポイントといったん拡大したものの、今回は1.3ポイントと、その差が縮小している。

一方、「満足」に着目すると、昭和58年から平成15年にかけては徐々に減少する傾向を示していたが、今回は9.5ポイント増加している。

(図-1) (表-1)

図-1 住宅及び住環境に対する総合評価(推移)



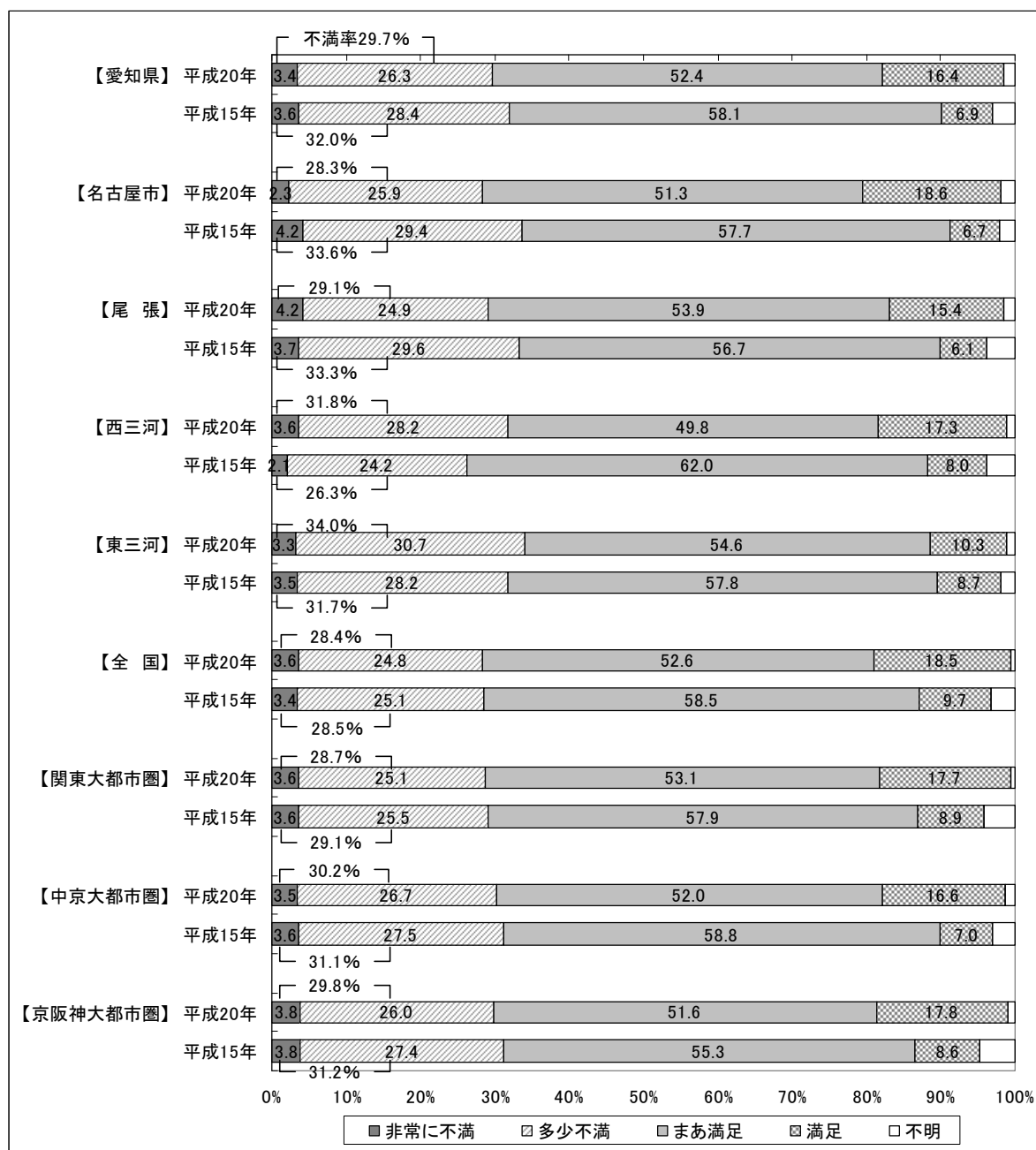
②地域別

地域別に住宅及び住環境に対する総合評価についてみると、東三河が 34.0%と最も不満率が高く、次いで西三河 31.8%、尾張 29.1%、名古屋 28.3%の順となっている。平成 15 年と比較すると、名古屋で 5.3 ポイント、尾張で 4.2 ポイント減少しているのに対し、西三河では 5.5 ポイント、東三河では 2.3 ポイント増加している。

全国の他都市圏と不満率を比較すると、関東大都市圏が 28.7%、京阪神都市圏が 29.8%に対して、名古屋及び尾張はほぼ同水準かやや不満率が低い状況にあるが、西三河及び東三河の不満率は総じて高い。

(図-2) (表-1)

図-2 住宅及び住環境に対する総合評価(地域別)



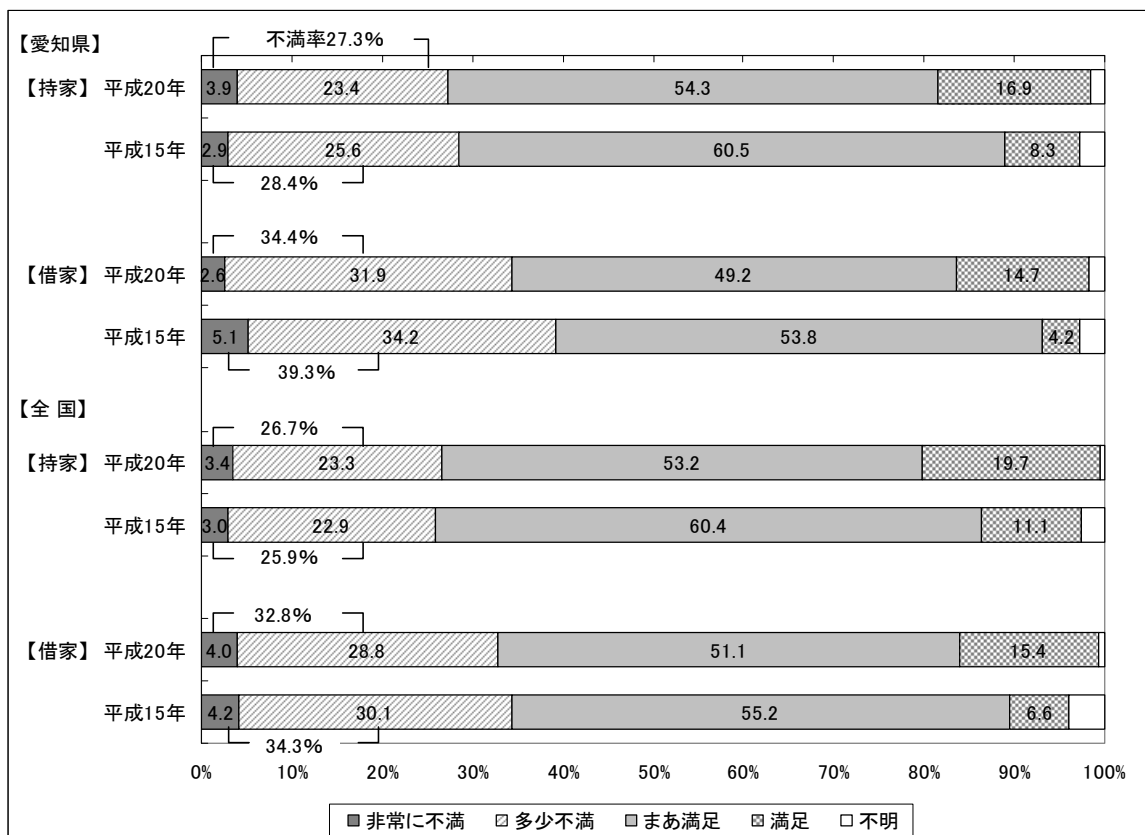
③住宅タイプ別

所有関係別に住宅及び住環境に対する総合評価をみると、持・借別では持家の不満率は27.3%、借家では34.4%となっており、借家の不満率が高い状況となっている。平成15年と比較すると、借家の不満率は39.3%から34.4%と4.9ポイント減少しており、持家の減少幅(1.1ポイント)に比べ減少幅が大きい。

全国と比較すると、持家では、全国の不満率が平成15年の25.9%から26.7%へと0.8ポイント増加しているのに対し、愛知県は同28.4%から27.3%と1.1ポイント減少している。また、借家では全国が平成15年の34.3%から32.8%と1.5ポイント減少しているのに対し、愛知県は同39.3%から34.4%と4.9ポイント減少しており、全国に比べ不満率の減少幅が大きい。

(図-3) (表-2)

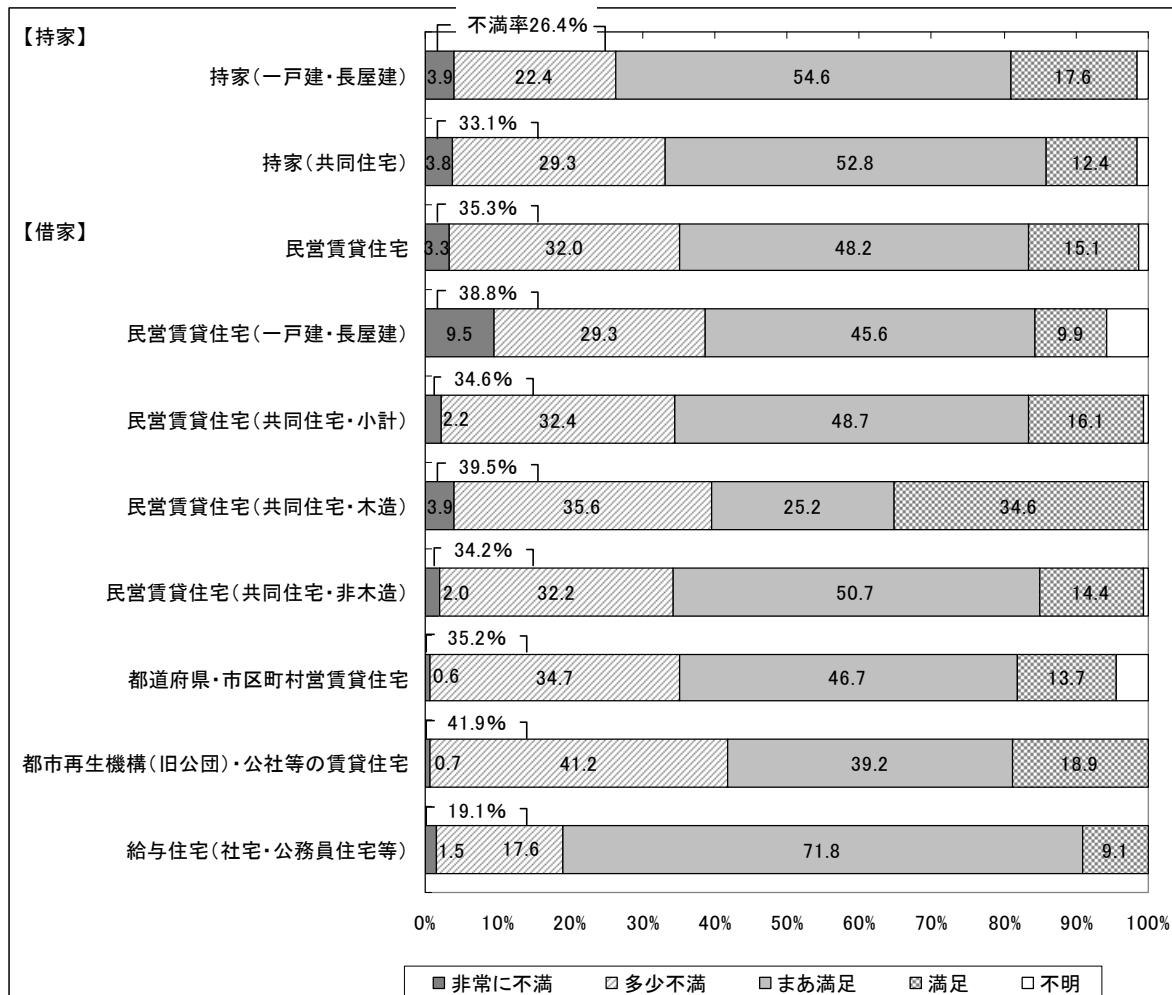
図-3 住宅及び住環境に対する総合評価(持家・借家別)



持家の中では、「一戸建・長屋建」の不満率が26.4%、「共同住宅」が33.1%と、「共同住宅」の不満率が高い。一方、借家の中では、「都市再生機構（旧公団）・公社等の賃貸住宅」が41.9%と最も不満率が高く、次いで「民営賃貸住宅（共同住宅・木造）」（39.5%）、「民営賃貸住宅（一戸建・長屋建）」（38.8%）、「都道府県・市区町村営賃貸住宅」（35.2%）、「民営賃貸住宅（共同住宅・非木造）」（34.2%）、「給与住宅（社宅・公務員住宅等）」（19.1%）の順となっている。

（図-4）（表-2）

図-4 住宅及び住環境に対する総合評価（住宅タイプ別）



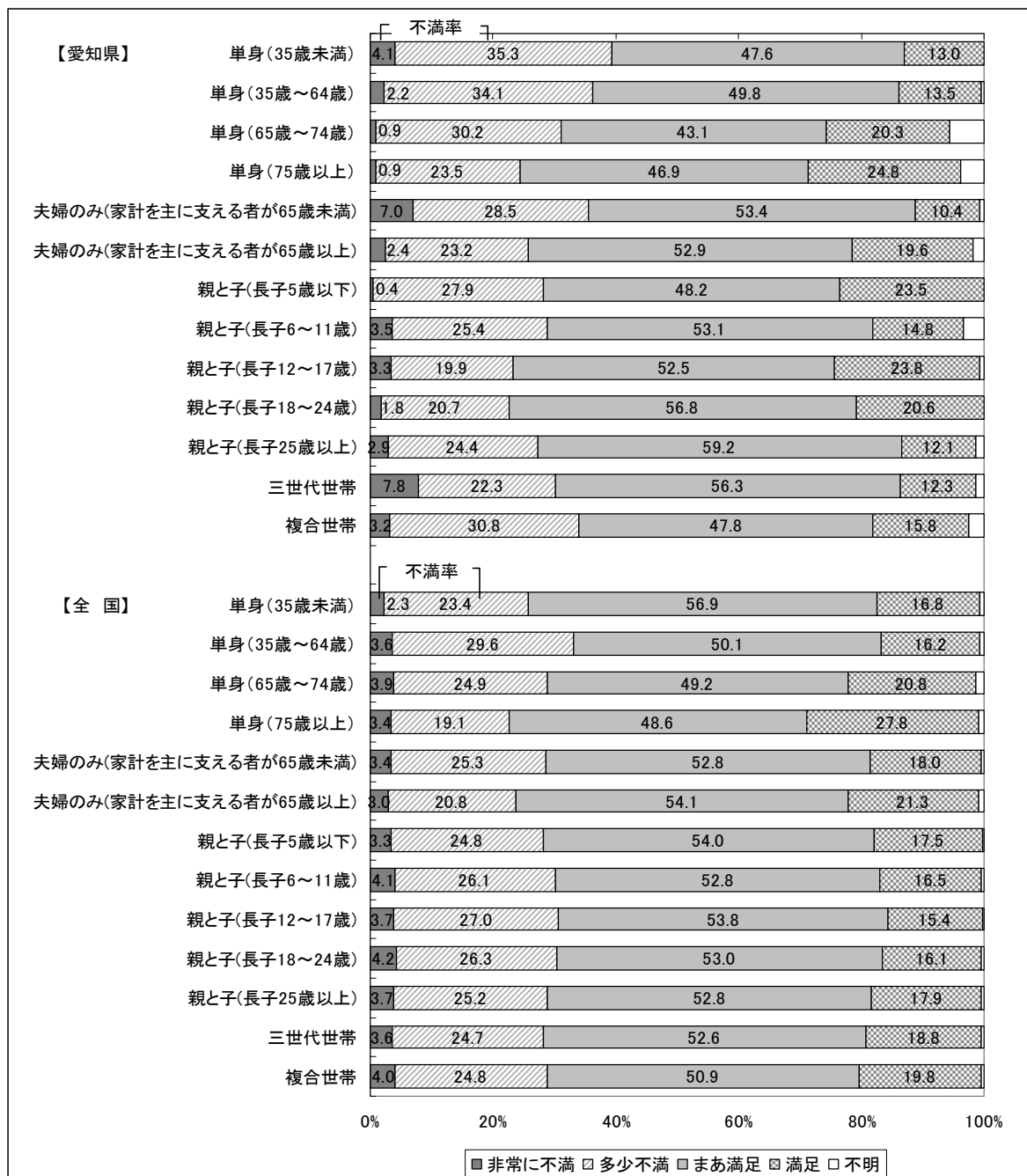
④家族型別

家族型別に住宅及び住環境に対する総合評価をみると、「単身（35歳未満）」の不満率が39.4%と最も高く、次いで「単身（35歳～64歳）」（36.3%）、「夫婦のみ（家計を主に支える者が65歳未満）」（35.5%）となっている。一方、不満率が低いのは「親と子（長子18～24歳）」（22.5%）、「親と子（長子12～17歳）」（23.2%）、「単身（75歳以上）」（24.4%）となっている。

全国と比較すると、特に「単身（35歳未満）」、「夫婦のみ（家計を主に支える者が65歳未満）」、「複合世帯」では不満率が高くなっている。一方、「親と子（長子18～24歳）」、「親と子（長子12～17歳）」では全国を下回っている。

（図-5）（表-3）

図-5 住宅及び住環境に対する総合評価(家族型別)



(2) 住宅に対する評価、住宅の各要素に対する評価(不満率)

①愛知県及び全国の推移

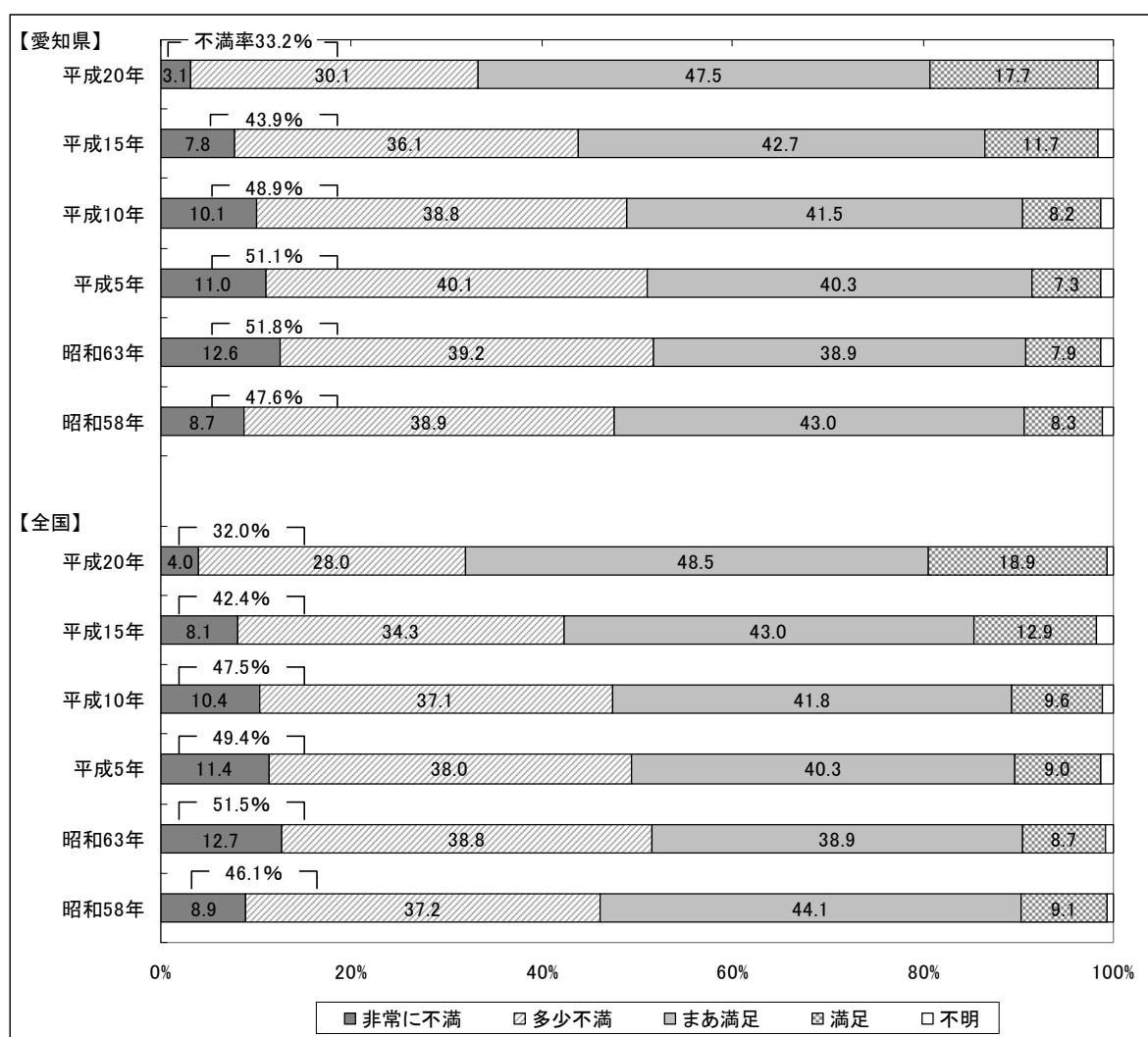
住宅に対する総合評価をみると、「非常に不満」は3.1%、「多少不満」は30.1%であり、不満率は33.2%となっている。平成15年と比較すると、「非常に不満」が4.7ポイント、「多少不満」が6.0ポイント減少し、不満率としては10.7ポイント減少している。一方、「満足」は11.7%から17.7%と6.0ポイント増加している。

経年的にみると、不満率は昭和63年で増加したものの、その後は徐々に減少している。

全国と比較すると、愛知県は「非常に不満」の割合は低く、「多少不満」の割合が多い傾向にある。愛知県の不満率は全国の不満率を上回っているが、その差は前回の1.5ポイントから1.2ポイントとわずかに縮小している。

(図-6) (表-1)

図-6 住宅に対する評価(推移)



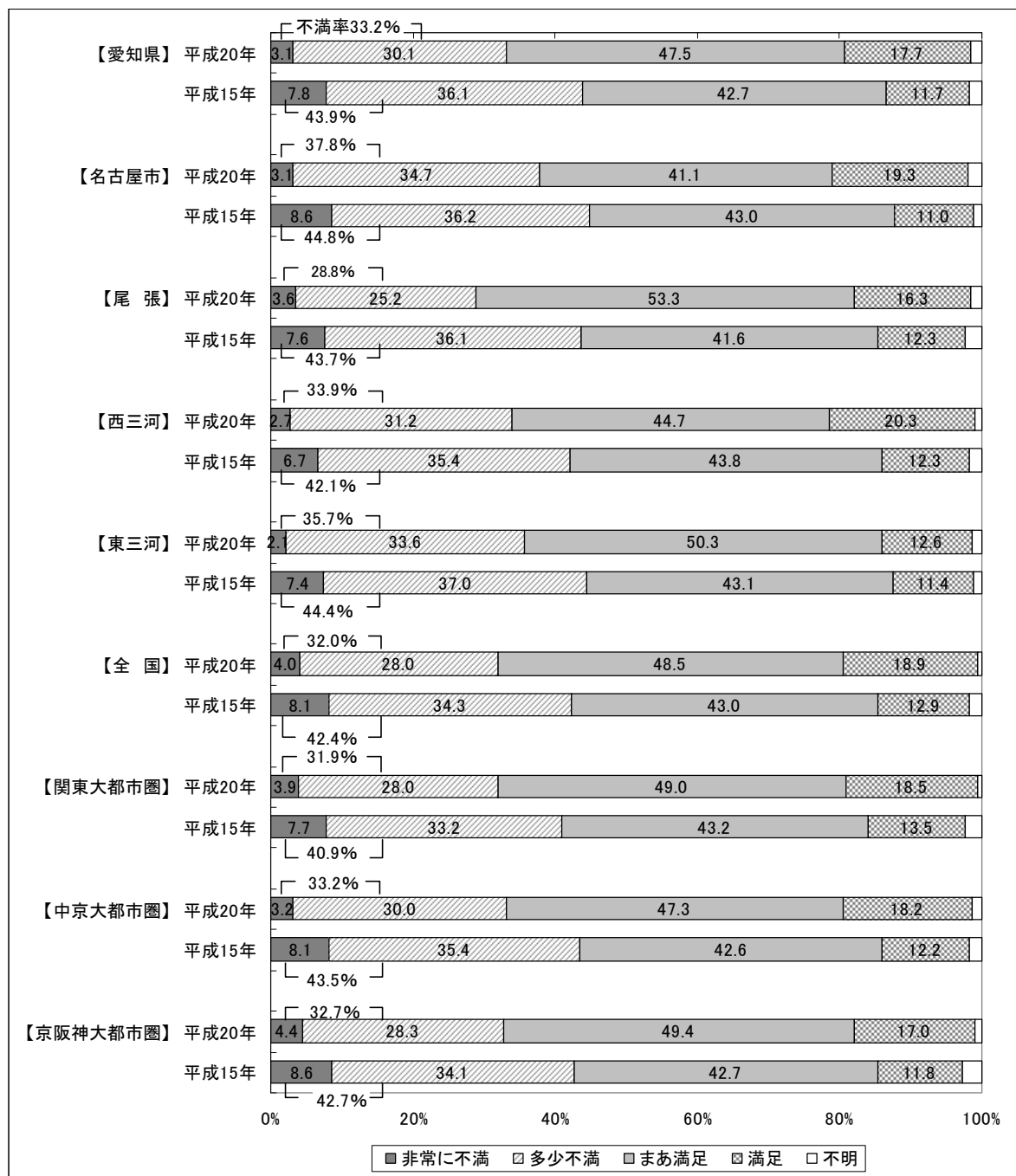
②地域別

地域別に住宅に対する不満率をみると、名古屋市が37.8%と最も高く、次いで東三河35.7%、西三河33.9%、尾張28.8%の順となっている。平成15年と比較すると、4地域ともに不満率は減少しており、特に尾張では15.0ポイントと減少幅が大きい。

全国の他都市圏と比較すると、尾張が関東大都市圏（31.9%）や京阪神大都市圏（32.7%）を下回っている以外は、いずれも不満率が高くなっている。

(図-7) (表-1)

図-7 住宅に対する評価(地域別)



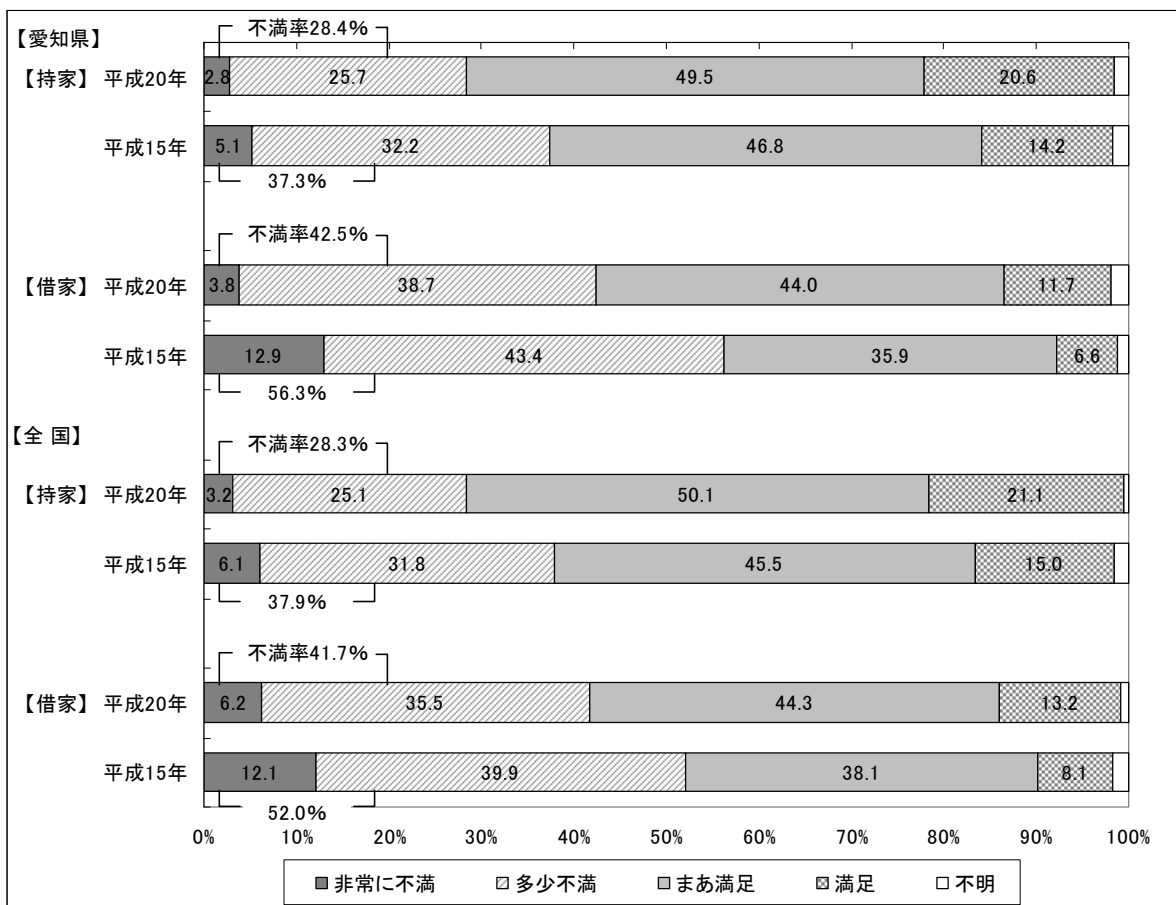
③住宅タイプ別

所有関係別に住宅に対する総合評価をみると、持・借別では持家の不満率は28.4%、借家では42.5%となっており、借家の不満率が高い状況となっている。平成15年と比較すると、持家では37.3%から28.4%と8.9ポイント減少しているのに対し、借家では56.3%から42.5%と13.8ポイント減少し、減少幅が大きい。

全国と比較すると、持家では、全国の不満率が平成15年の37.9%から28.3%へと9.6ポイント減少しているのに対し、愛知県は同37.3%から28.4%と8.9ポイントの減少とほぼ似たような変化を示している。一方、借家については全国が平成15年の52.0%から41.7%と10.3ポイント減少しているのに対し、愛知県は同56.3%から42.5%と13.8ポイント減少しており、全国に比べ不満率の減少幅が大きくなっている。

(図-8) (表-2)

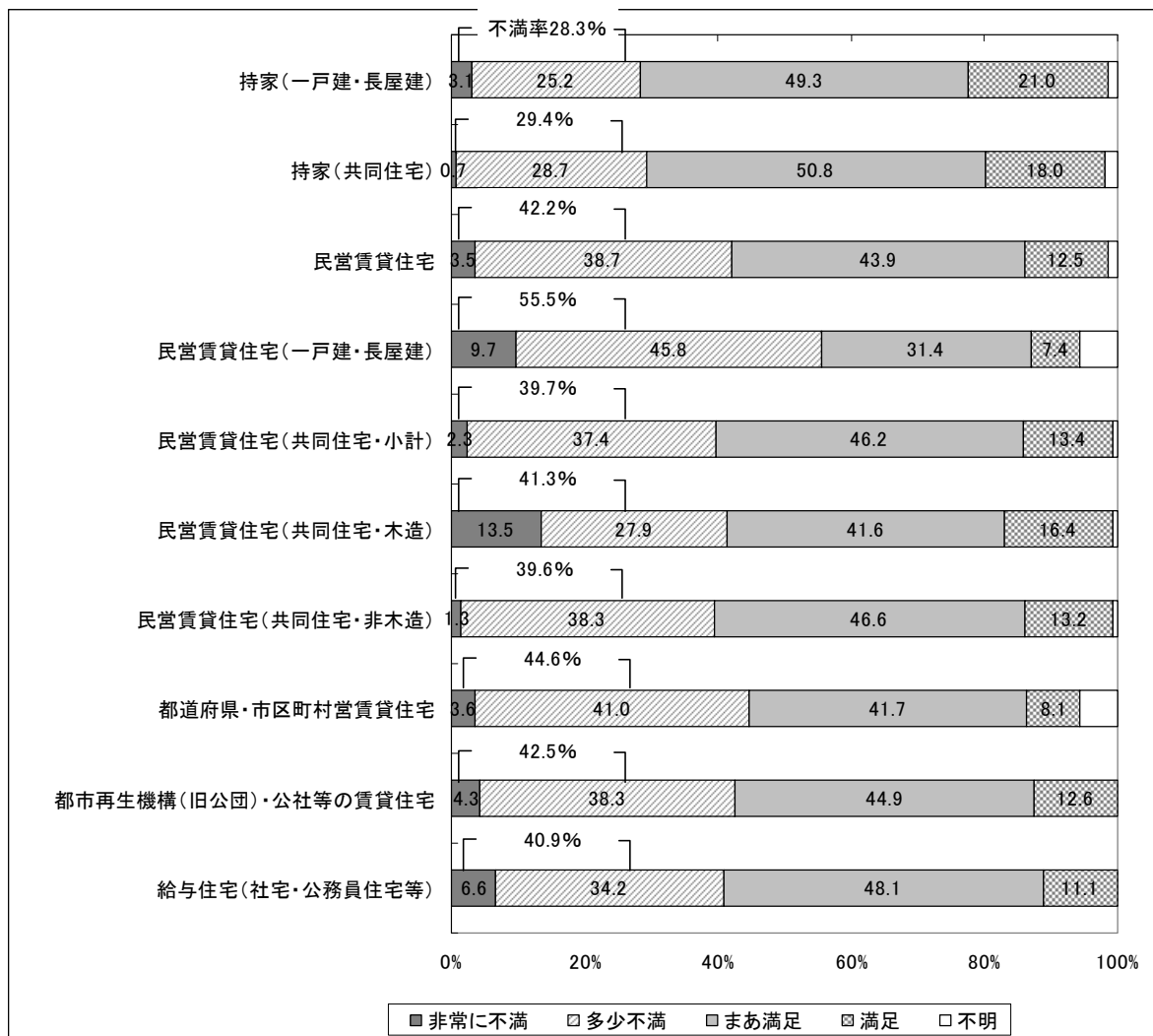
図-8 住宅に対する評価(持家・借家別)



持家の中では、「一戸建・長屋建」の不満率が28.3%、「共同住宅」が29.4%と、わずかながら「共同住宅」の不満率が高い。一方、借家の中では、「民営賃貸住宅（一戸建・長屋建）」が55.5%と最も不満率が高く、次いで「都道府県・市区町村営賃貸住宅」（44.6%）、「都市再生機構（旧公団）・公社等の賃貸住宅」（42.5%）、「民営賃貸住宅（共同住宅・木造）」（41.3%）、「給与住宅（社宅・公務員住宅等）」（40.9%）、「民営賃貸住宅（共同住宅・非木造）」（39.6%）の順となっている。

（図-9）（表-2）

図-9 住宅に対する評価(住宅タイプ別)



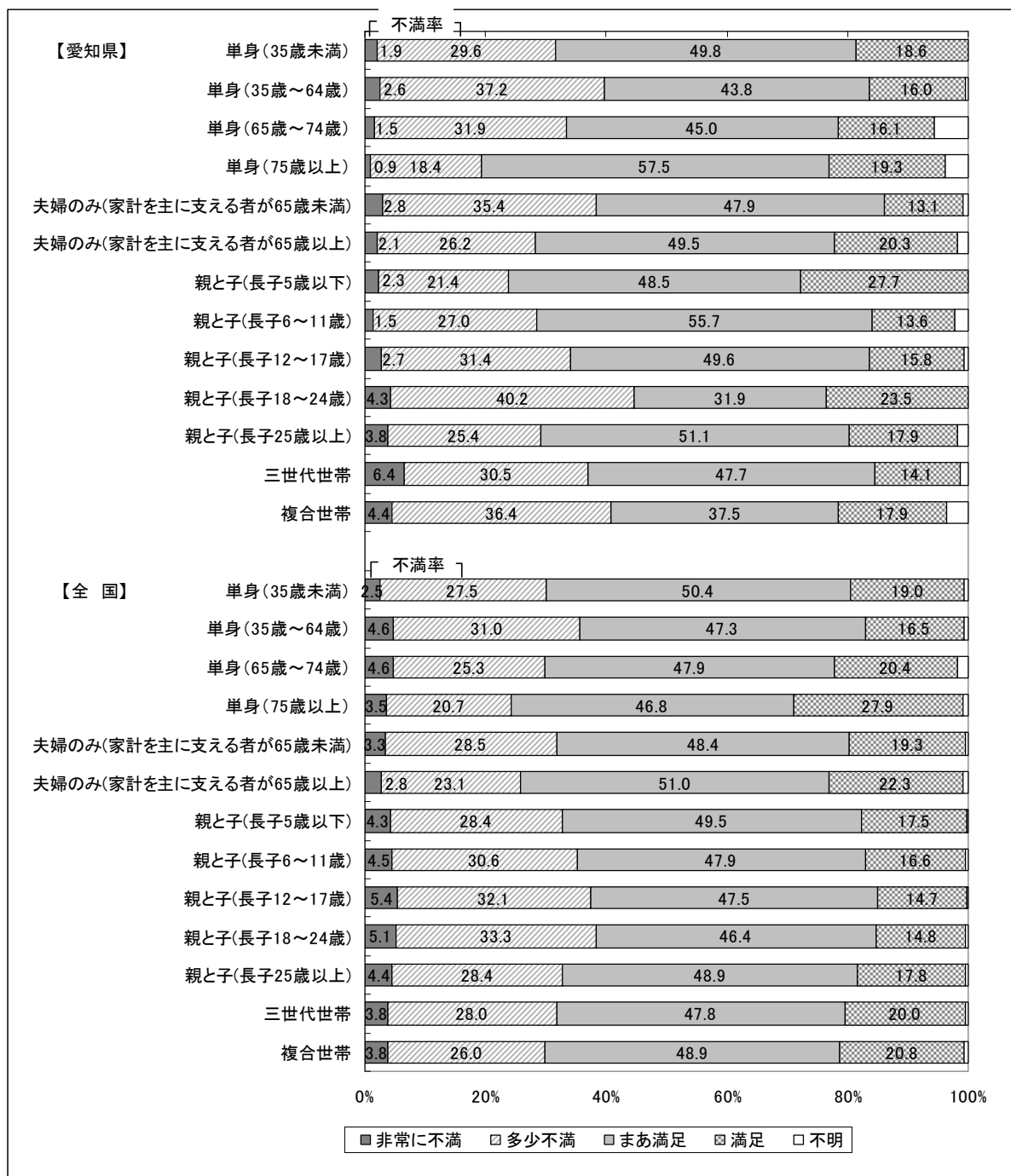
④家族型別

家族型別に住宅に対する総合評価をみると、「親と子（長子 18～24 歳）」の不満率が 44.5%と最も高く、次いで「複合世帯」（40.8%）、「単身（35 歳～64 歳）」（39.8%）となっている。一方、不満率が低いのは「単身（75 歳以上）」（19.3%）、「親と子（長子 5 歳以下）」（23.7%）となっている。

全国と比較すると、「複合世帯」で 11.0 ポイント、「夫婦のみ（家計を主に支える者が 65 歳未満）」で 6.4 ポイント、「親と子（長子 18～24 歳）」では 6.1 ポイント、それぞれ全国より高くなっている。一方、「親と子（長子 5 歳以下）」で 9.0 ポイント、「親と子（長子 6～11 歳）」では 6.6 ポイント、それぞれ全国よりも不満率が低くなっている。

(図-10) (表-3)

図-10 住宅に対する評価(家族型別)



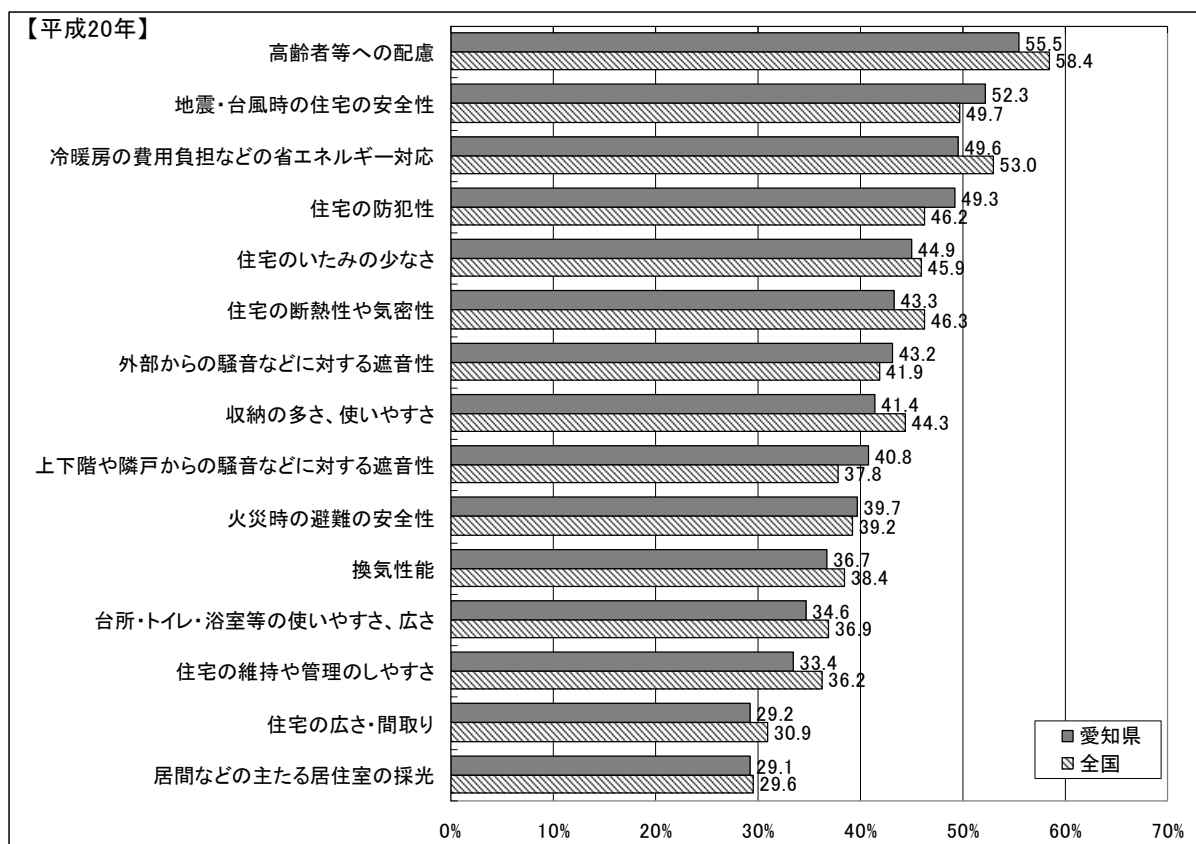
⑤住宅の各要素に対する不満率

住宅の各要素に対する不満率は、「高齢者等への配慮」が55.5%と最も高く、次いで「地震・台風時の住宅の安全性」(52.3%)となっている。一方、不満率の低い項目についてみると、「居間などの主たる居室の採光」が29.1%と最も低く、次いで「住宅の広さ・間取り」(29.2%)となっている。

全国と比較すると、多くの項目で不満率が全国を下回っており、特に「冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応」、「住宅の断熱性や気密性」では全国に対してそれぞれ3.4ポイント、3.0ポイント低くなっている。他方、「住宅の防犯性」、「上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性」については、全国に対してそれぞれ3.1ポイント、3.0ポイント高くなっている。

(図-11) (表-4)

図-11 住宅の各要素に対する不満率



前回調査（平成15年）と比較すると、全ての項目で不満率が低下しているが、特に「高齢者等への配慮」、「収納の多さ、使いやすさ」、「住宅の広さ・間取り」ではそれぞれ11.9ポイント、11.3ポイント、10.8ポイントといずれも10ポイント以上不満率が低下している。

地域別にみると、名古屋市では「火災時の避難の安全性」が、東三河では「上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性」に対する不満率がそれぞれ44.5%、47.6%と他地域に比べて高くなっている。他方、西三河では「居間などの主たる居住室の採光」が、東三河では「台所・トイレ・浴室等の使いやすさ、広さ」に対する不満率がそれぞれ25.3%、22.4%と他地域に比べて低くなっている。

(図-12) (図-13) (表-4)

図-12 住宅の各要素に対する不満率(前回調査との比較)

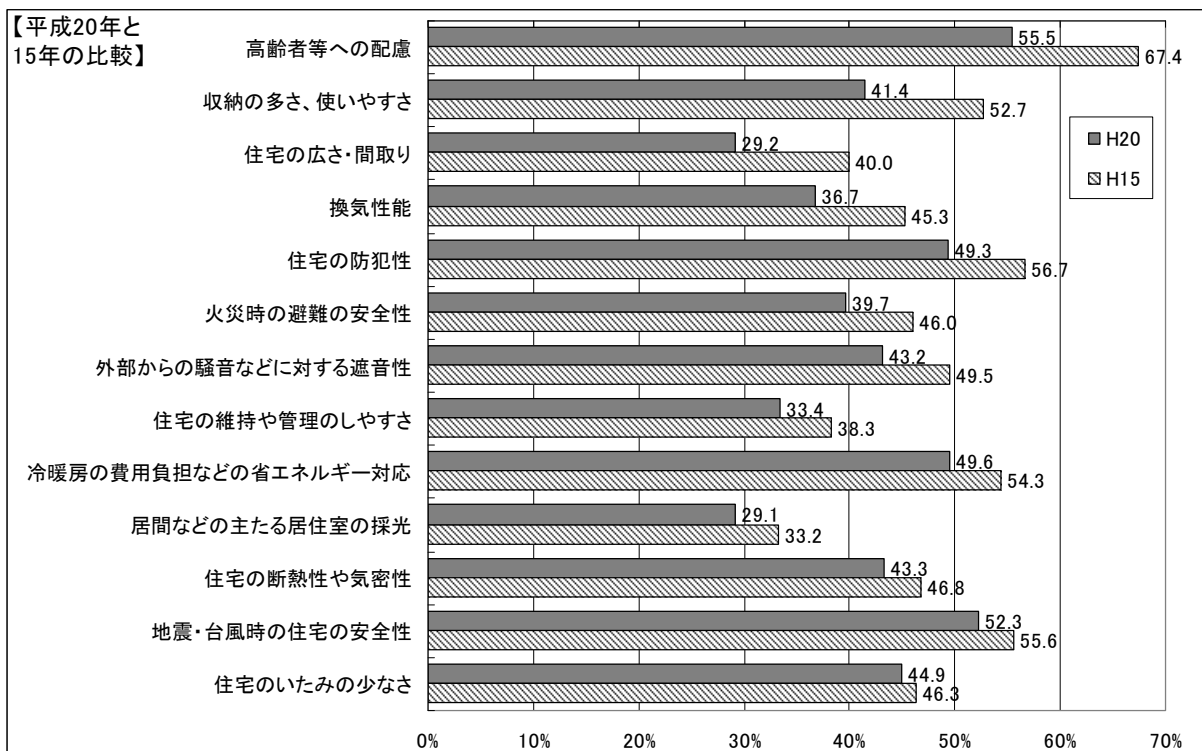


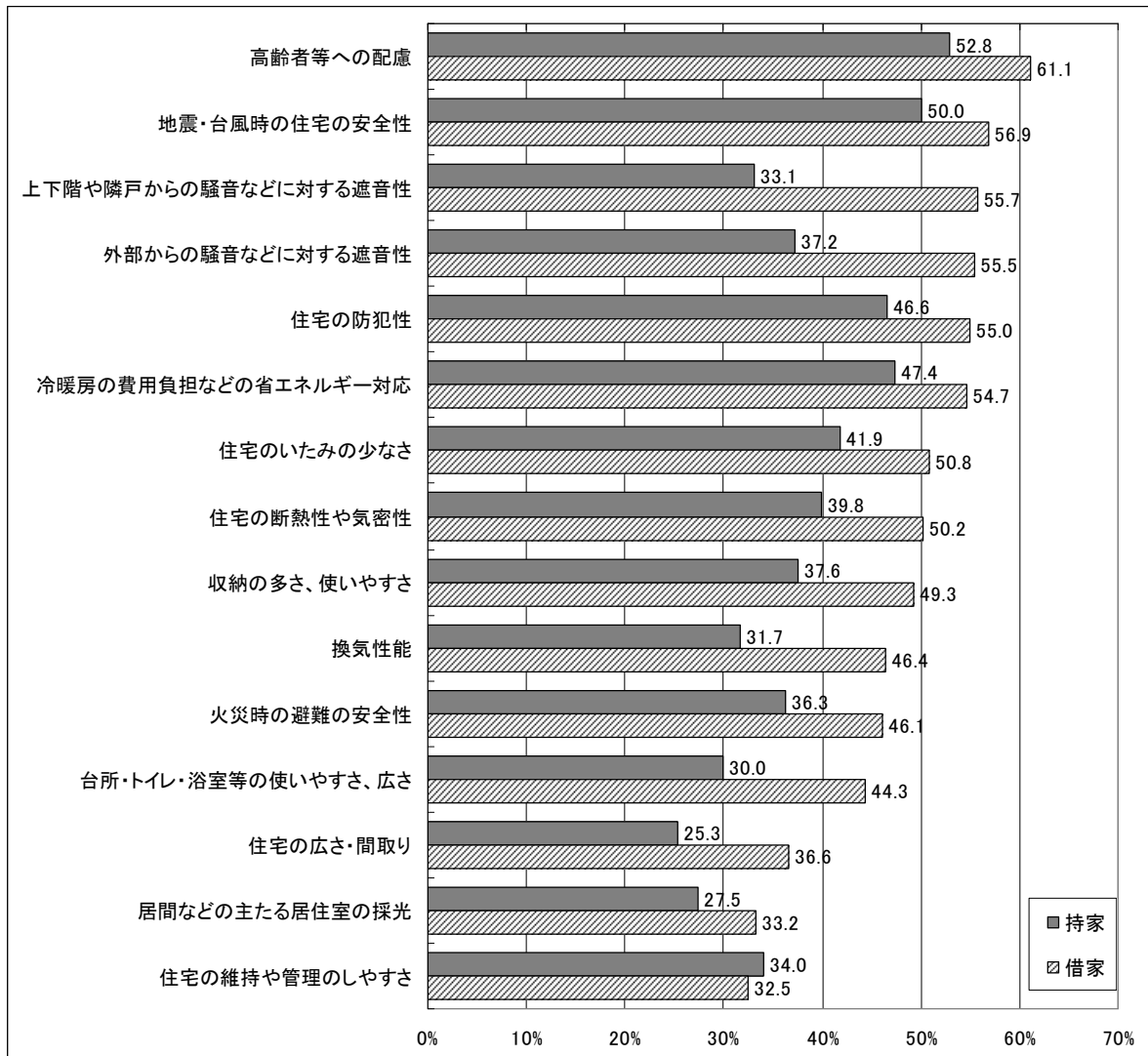
図-13 住宅の各要素に対する不満率(地域別)

| 【平成20年】 | 名古屋市 | 尾張 | 西三河 | 東三河 |
|----------------------|------|------|------|------|
| 住宅の広さ・間取り | 32.0 | 27.1 | 29.6 | 27.9 |
| 収納の多さ、使いやすさ | 41.6 | 42.3 | 43.9 | 31.7 |
| 台所・トイレ・浴室等の使いやすさ、広さ | 35.1 | 34.8 | 39.2 | 22.4 |
| 地震・台風時の住宅の安全性 | 52.5 | 52.0 | 53.6 | 49.9 |
| 火災時の避難の安全性 | 44.5 | 39.2 | 31.8 | 39.7 |
| 住宅の防犯性 | 48.0 | 47.9 | 53.7 | 51.7 |
| 住宅のいたみの少なさ | 48.8 | 43.6 | 38.4 | 49.9 |
| 住宅の維持や管理のしやすさ | 35.1 | 32.9 | 31.2 | 33.4 |
| 住宅の断熱性や気密性 | 42.1 | 45.1 | 42.6 | 40.5 |
| 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 49.7 | 51.1 | 47.9 | 45.1 |
| 高齢者等への配慮 | 53.8 | 57.3 | 56.1 | 51.7 |
| 換気性能 | 37.6 | 36.1 | 36.0 | 37.6 |
| 居間などの主たる居住室の採光 | 32.0 | 29.0 | 25.3 | 26.7 |
| 外部からの騒音などに対する遮音性 | 43.4 | 42.4 | 43.8 | 45.1 |
| 上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性 | 39.6 | 40.9 | 39.1 | 47.6 |

住宅タイプ（所有関係）別にみると、借家では「住宅の維持や管理のしやすさ」以外の全ての項目について、持家に比べて不満率が高い。特に「上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性」では持家が 33.1%であるのに対し、借家は 55.7%と 22.6 ポイントも不満率が上回っている。同様に「外部からの騒音などに対する遮音性」も持家に比べて 18.3 ポイント不満率が高くなっている。

(図-14) (表-5)

図-14 住宅の各要素に対する不満率(住宅タイプ別)



不満率の上位3項目について家族型別にみた場合、特に「複合世帯」の「地震・台風時の住宅の安全性」(67.2%)や「単身(35歳未満)」の「上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性」(66.7%)、「外部からの騒音などに対する遮音性」(65.7%)、「地震・台風時の住宅の安全性」(64.4%)などの不満率が高くなっている。「単身(75歳以上)」では総じて不満率は低くなっている。

(図-15) (表-6)

図-15 住宅の各要素に対する不満率(家族型別)

| 家族型 | 第1位 | | 第2位 | | 第3位 | |
|-----------------------|----------------------|--------|----------------------|--------|---------------------|--------|
| | 要素 | 不満率(%) | 要素 | 不満率(%) | 要素 | 不満率(%) |
| 単身(35歳未満) | 上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性 | 66.7 | 外部からの騒音などに対する遮音性 | 65.7 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 64.4 |
| 単身(35歳～64歳) | 地震・台風時の住宅の安全性 | 62.6 | 高齢者等への配慮 | 60.8 | 外部からの騒音などに対する遮音性 | 54.5 |
| 単身(65歳～74歳) | 高齢者等への配慮 | 52.7 | 住宅の断熱性や気密性 | 48.6 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 47.9 |
| 単身(75歳以上) | 地震・台風時の住宅の安全性 | 46.1 | 住宅の防犯性 | 42.5 | 外部からの騒音などに対する遮音性 | 39.9 |
| 夫婦のみ(家計を主に支える者が65歳未満) | 高齢者等への配慮 | 56.4 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 54.3 | 外部からの騒音などに対する遮音性 | 51.1 |
| 夫婦のみ(家計を主に支える者が65歳以上) | 地震・台風時の住宅の安全性 | 51.5 | 高齢者等への配慮 | 51.5 | 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 49.9 |
| 親と子(長子5歳以下) | 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 49.0 | 上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性 | 47.0 | 高齢者等への配慮 | 42.4 |
| 親と子(長子6～11歳) | 高齢者等への配慮 | 51.0 | 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 49.2 | 収納の多さ、使いやすさ | 48.9 |
| 親と子(長子12～17歳) | 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 61.0 | 高齢者等への配慮 | 58.7 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 58.3 |
| 親と子(長子18～24歳) | 高齢者等への配慮 | 57.7 | 収納の多さ、使いやすさ | 57.0 | 台所・トイレ・浴室等の使いやすさ、広さ | 53.3 |
| 親と子(長子25歳以上) | 高齢者等への配慮 | 59.0 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 54.7 | 住宅の防犯性 | 52.7 |
| 三世帯世帯 | 高齢者等への配慮 | 60.7 | 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 57.0 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 56.2 |
| 複合世帯 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 67.2 | 高齢者等への配慮 | 60.8 | 住宅の断熱性や気密性 | 58.9 |
| 県全体 | 高齢者等への配慮 | 55.5 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 52.3 | 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 49.6 |

(3) 住環境に対する評価、住環境の各要素に対する評価(不満率)

①愛知県及び全国の推移

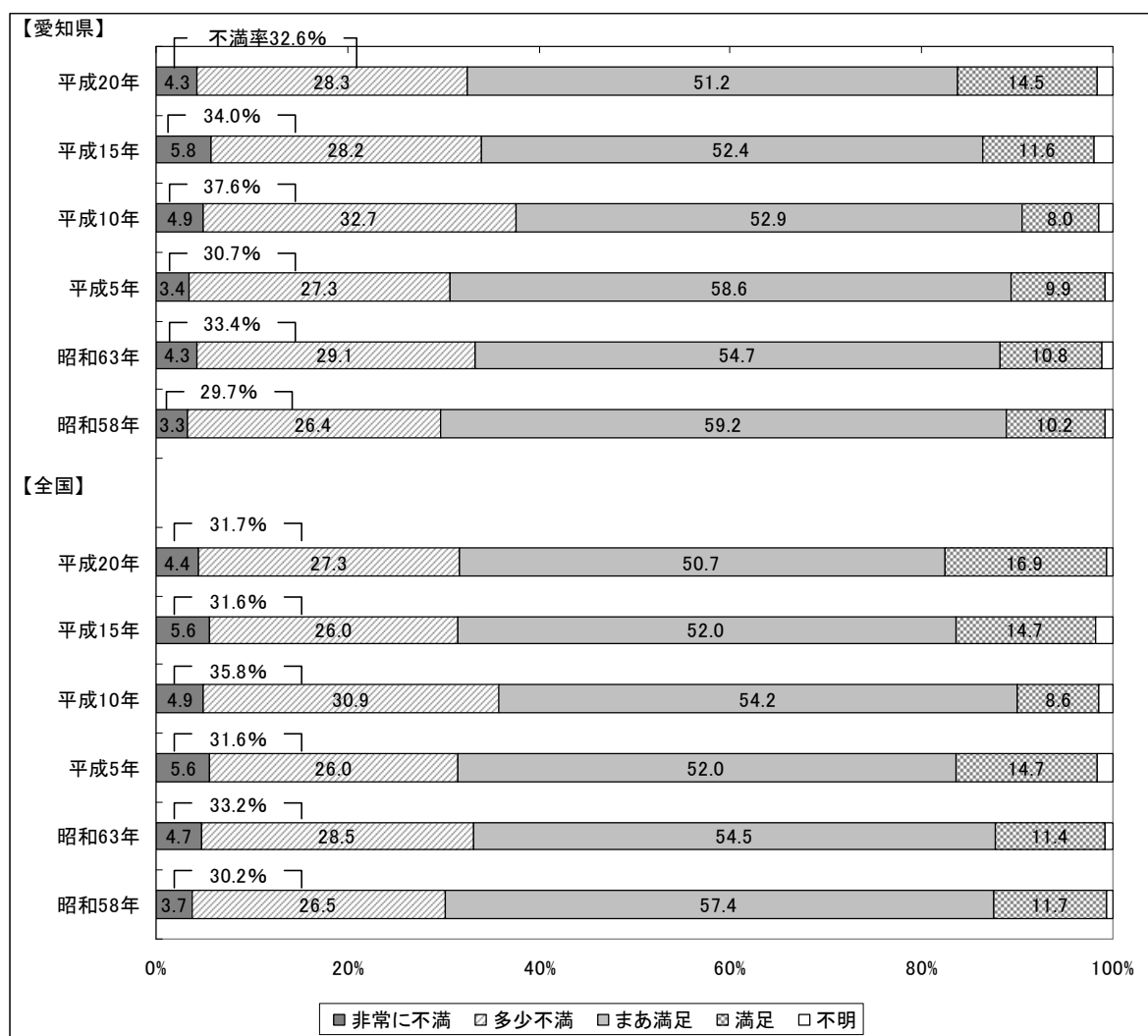
住環境に対する評価は、「非常に不満」が4.3%、「多少不満」が28.3%であり、不満率は32.6%となっている。平成15年と比較すると、「非常に不満」が1.5ポイント減少し、不満率としては1.4ポイントの減少となっている。一方、「満足」は2.9ポイント増加している。

推移をみると、「満足」の割合は平成10年以降増加傾向にある。

全国と比較すると、昭和58年と平成5年を除く全ての調査年において、愛知県の不満率は全国に比べてわずかながら高い傾向にある。

(図-16) (表-1)

図-16 住環境に対する評価(推移)



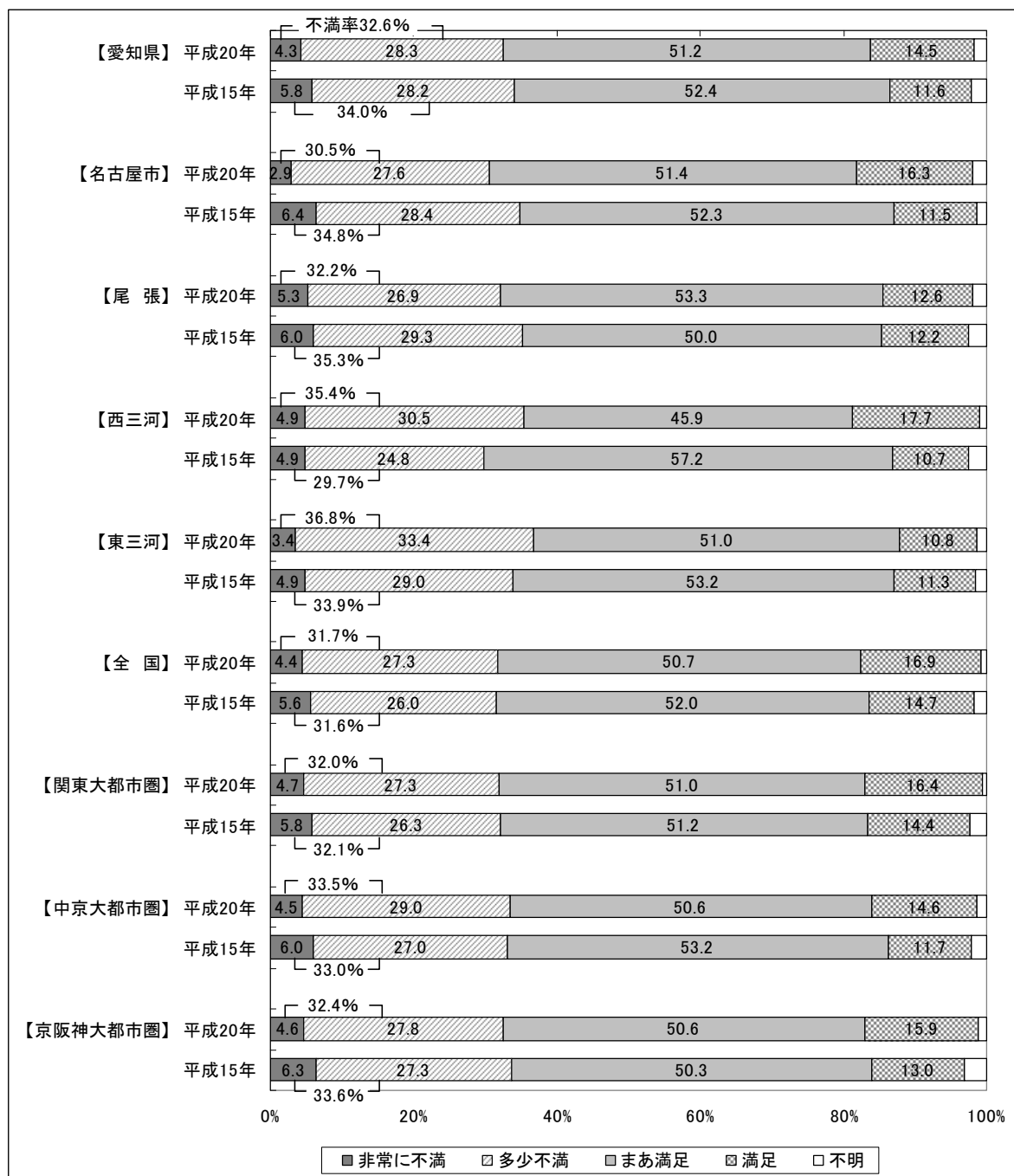
②地域別

地域別に住環境に対する不満率をみると、東三河で36.8%と最も高く、次いで西三河(35.4%)、尾張(32.2%)、名古屋市(30.5%)の順となっている。平成15年と比較すると、西三河では29.7%から35.4%と5.7ポイント増加し、東三河では33.9%から36.8%と2.9ポイント増加している一方、名古屋市では4.3ポイント減少、尾張では3.1ポイント減少している。

全国の他都市圏と比較すると、西三河と東三河では、いずれも関東大都市圏(32.0%)、京阪神大都市圏(32.4%)の不満率を上回っている。

(図-17) (表-1)

図-17 住環境に対する評価(地域別)



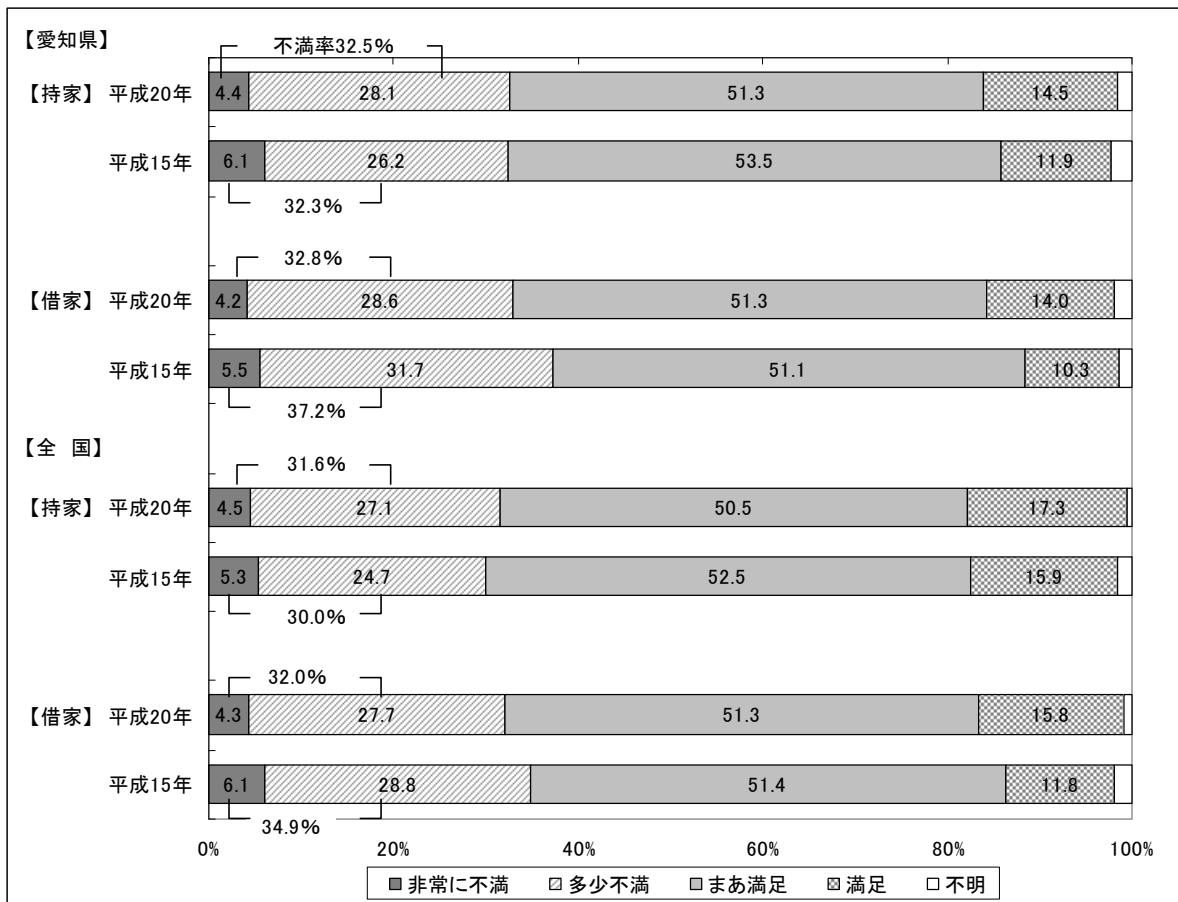
③住宅タイプ別

所有関係別に住環境に対する総合評価をみると、持・借別では持家の不満率は32.5%、借家では32.8%となっており、ほぼ同程度不満率となっている。平成15年と比較すると、持家の不満率は32.3%から32.5%と0.2ポイント増加している一方で、借家は37.2%から32.9%と4.4ポイント減少している。

全国と比較すると、持家では、全国の不満率が平成15年の30.0%から31.6%へと1.6ポイント増加しているのに対し、愛知県は同32.3%から32.5%への0.2ポイントの増加とあまり変化がない。一方、借家では全国が平成15年の34.9%から32.0%と2.9ポイント減少しているのに対し、愛知県は同37.2%から32.8%と4.4ポイント減少しており、全国に比べ不満率の減少幅が大きい。

(図-18) (表-2)

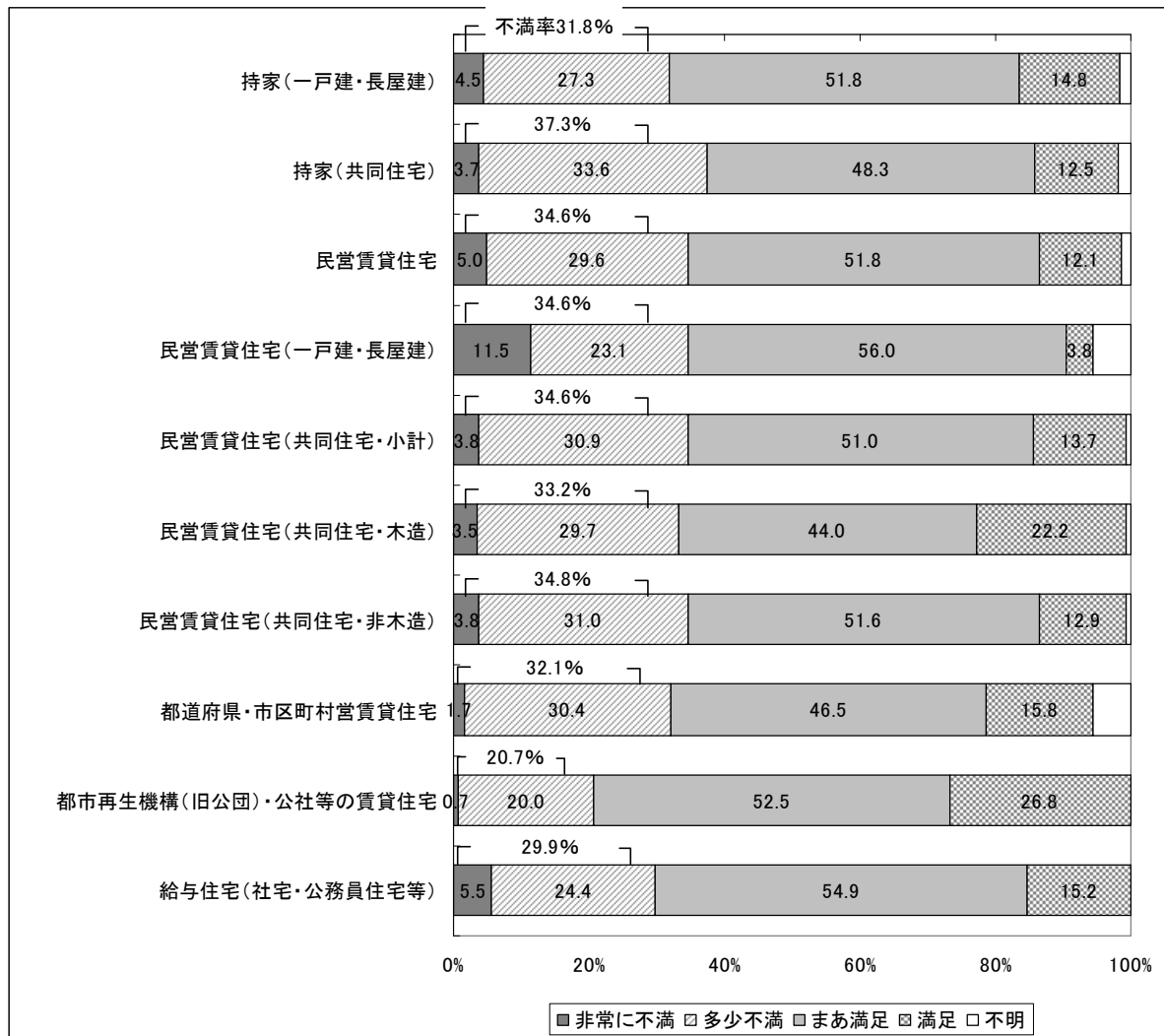
図-18 住環境に対する評価(持家・借家別)



持家の中では、「一戸建・長屋建」の不満率が31.8%、「共同住宅」が37.3%と、「共同住宅」で不満率が高い。一方、借家の中では、「民営賃貸住宅（共同住宅・非木造）」が34.8%と最も不満率が高く、次いで「民営賃貸住宅（一戸建・長屋建）」（34.6%）、「民営賃貸住宅（共同住宅・木造）」（33.2%）、「都道府県・市区町村営賃貸住宅」（32.1%）、「給与住宅（社宅・公務員住宅等）」（29.9%）、「都市再生機構（旧公団）・公社等の賃貸住宅」（20.7%）の順となっている。

（図-19）（表-2）

図-19 住環境に対する評価（住宅タイプ別）



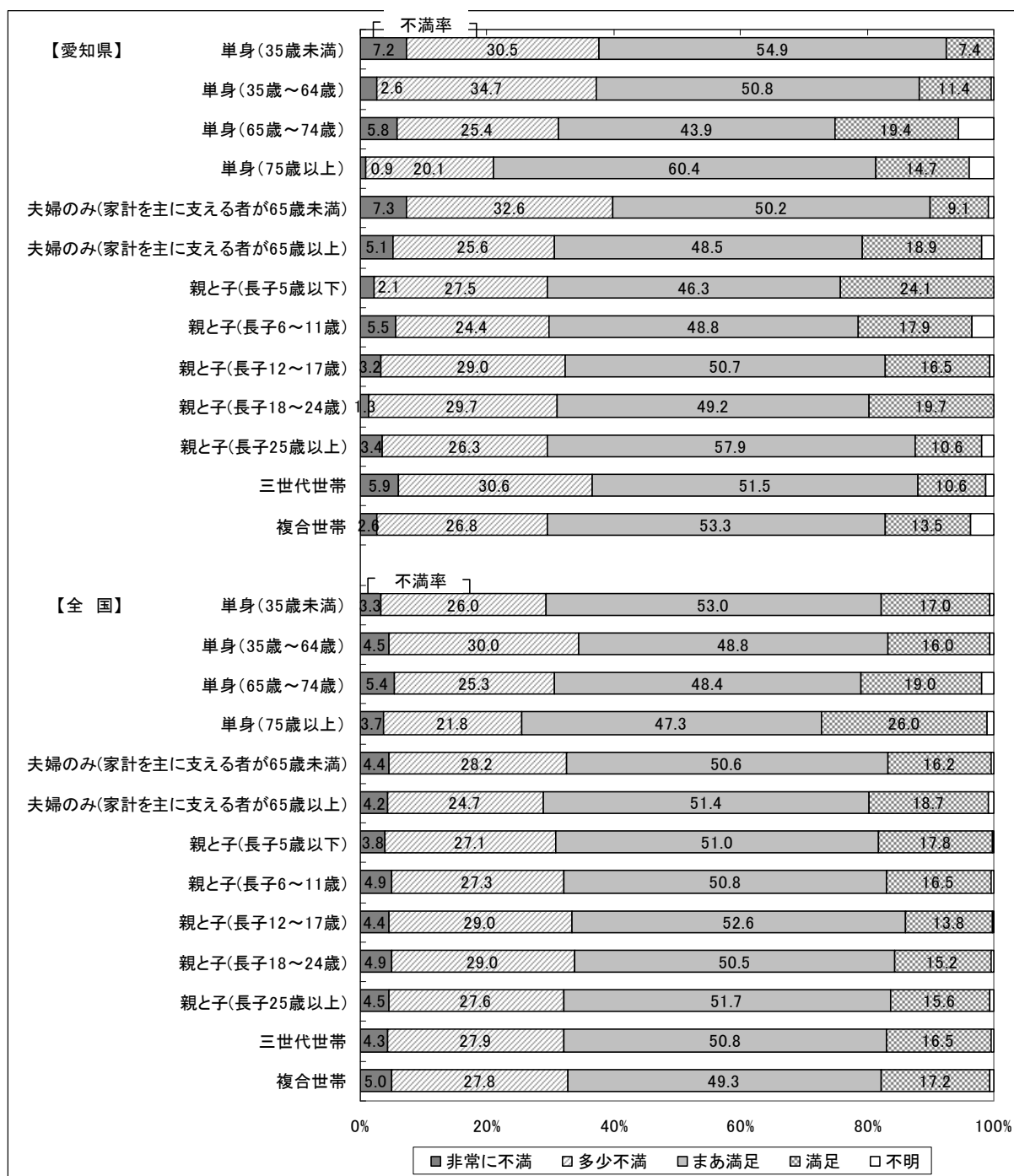
④家族型別

家族型別に住環境に対する総合評価をみると、「夫婦のみ（家計を主に支える者が65歳未満）」の不満率が39.9%と最も高く、次いで「単身（35歳未満）」（37.7%）、「単身（35歳～64歳）」（37.3%）となっている。一方、不満率が低いのは「単身（75歳以上）」（21.0%）、「複合世帯」（29.4%）となっている。

全国と比較すると、「単身（35歳未満）」で8.4ポイント、「夫婦のみ（家計を主に支える者が65歳未満）」で7.3ポイント、それぞれ不満率が高くなっている。一方、「単身（75歳以上）」で4.5ポイント、「複合世帯」で3.4ポイント、それぞれ不満率が低くなっている。

(図-20) (表-3)

図-20 住環境に対する評価(家族型別)



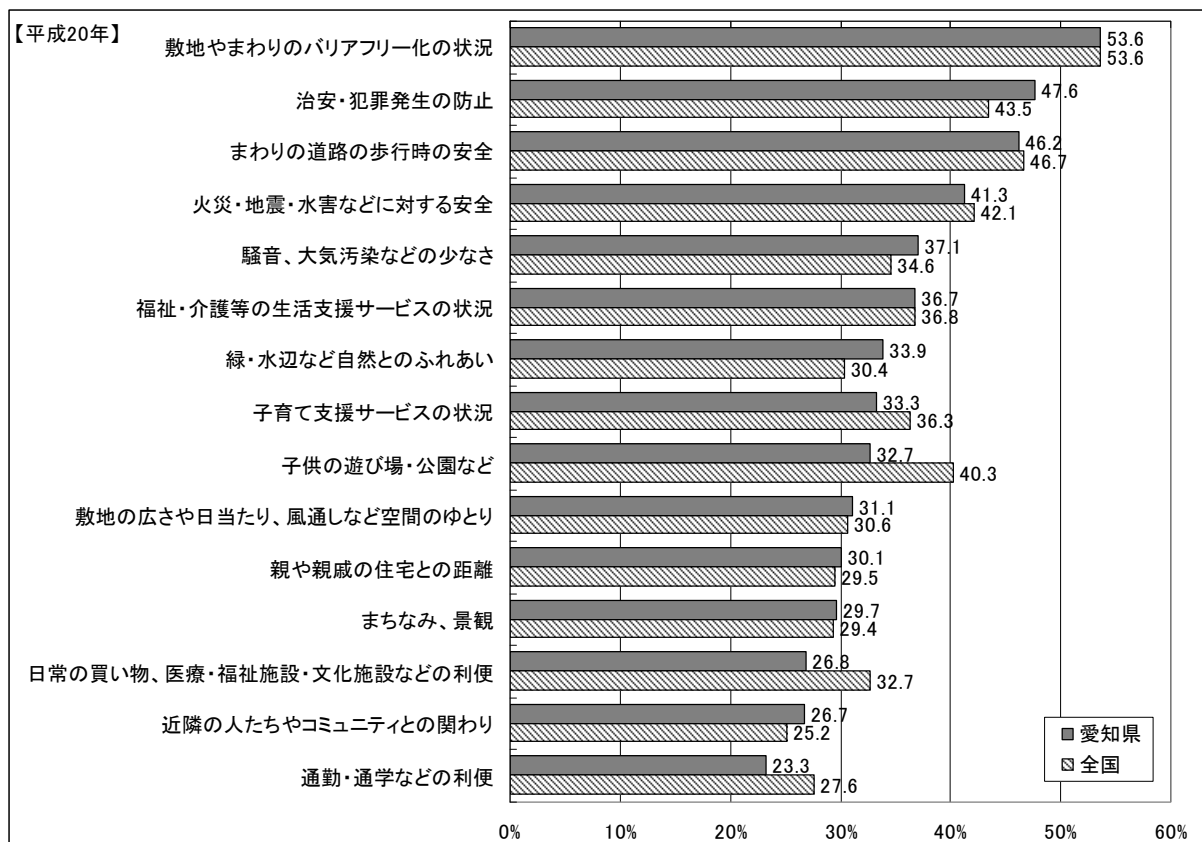
⑤住環境の各要素に対する不満率

住環境の各要素に対する不満率は、「敷地やまわりのバリアフリー化の状況」が53.6%と最も高く、次いで「治安・犯罪発生の防止」(47.6%)となっている。一方、不満率の低い項目についてみると、「通勤・通学などの利便」が23.3%と最も低く、次いで「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」(26.7%)となっている。

全国と比較すると、特に「子供の遊び場・公園など」、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」では全国に対してそれぞれ7.6ポイント、5.9ポイント低くなっている。他方、「治安・犯罪発生の防止」、「緑・水辺など自然とのふれあい」については、全国に対してそれぞれ4.1ポイント、3.5ポイント高くなっている。

(図-21) (表-7)

図-21 住環境の各要素に対する不満率



前回調査(平成15年)と比較すると、多くの項目で不満率が低下しているが、特に「まちなみ、景観」、「敷地の広さや日当たり、風通しなど空間のゆとり」、「騒音、大気汚染などの少なさ」ではそれぞれ7.3ポイント、6.5ポイント、5.4ポイントといずれも5ポイント以上不満率が低下している。一方、「まわりの道路の歩行時の安全」については3.0ポイント不満率が上昇している。

地域別にみると、尾張では「敷地やまわりのバリアフリー化の状況」が、西三河では「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」に対する不満率がそれぞれ56.8%、34.5%と他地域に比べて高くなっている。他方、名古屋市では「通勤・通学などの利便」が、東三河では「まちなみ、景観」に対する不満率がそれぞれ15.0%、16.9%と他地域に比べて低くなっている。

(図-22) (図-23) (表-7)

図-22 住環境の各要素に対する不満率(前回調査との比較)

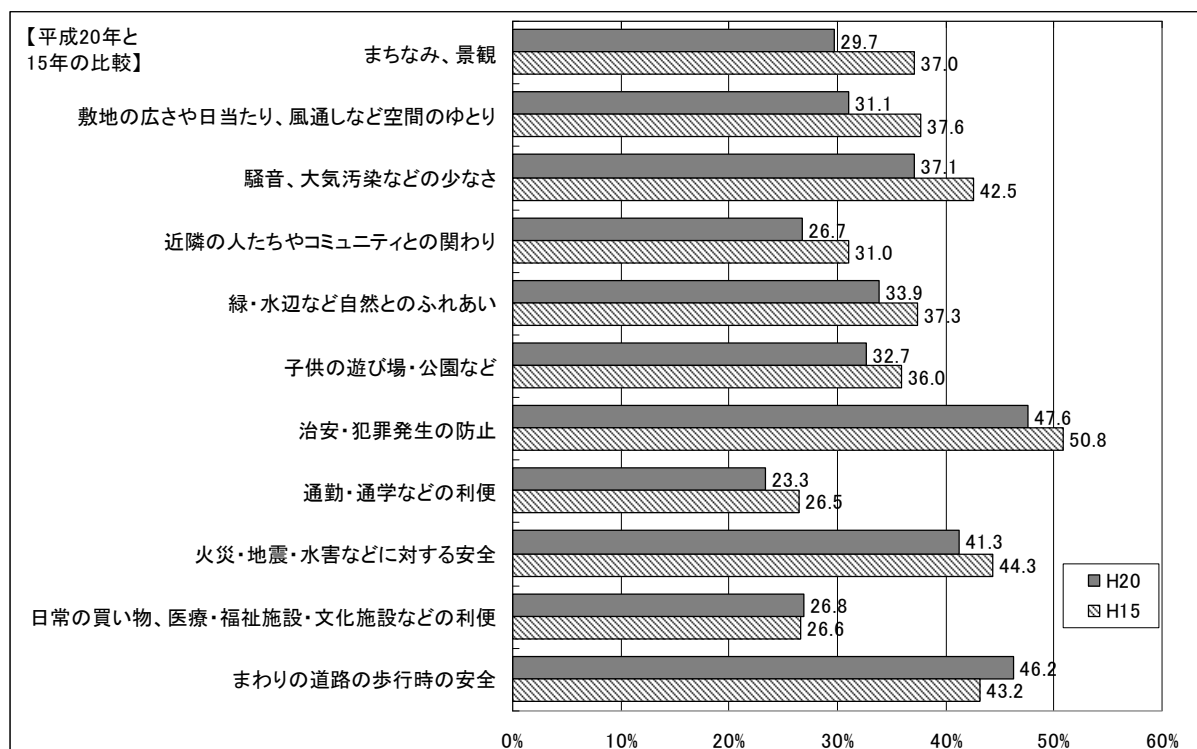


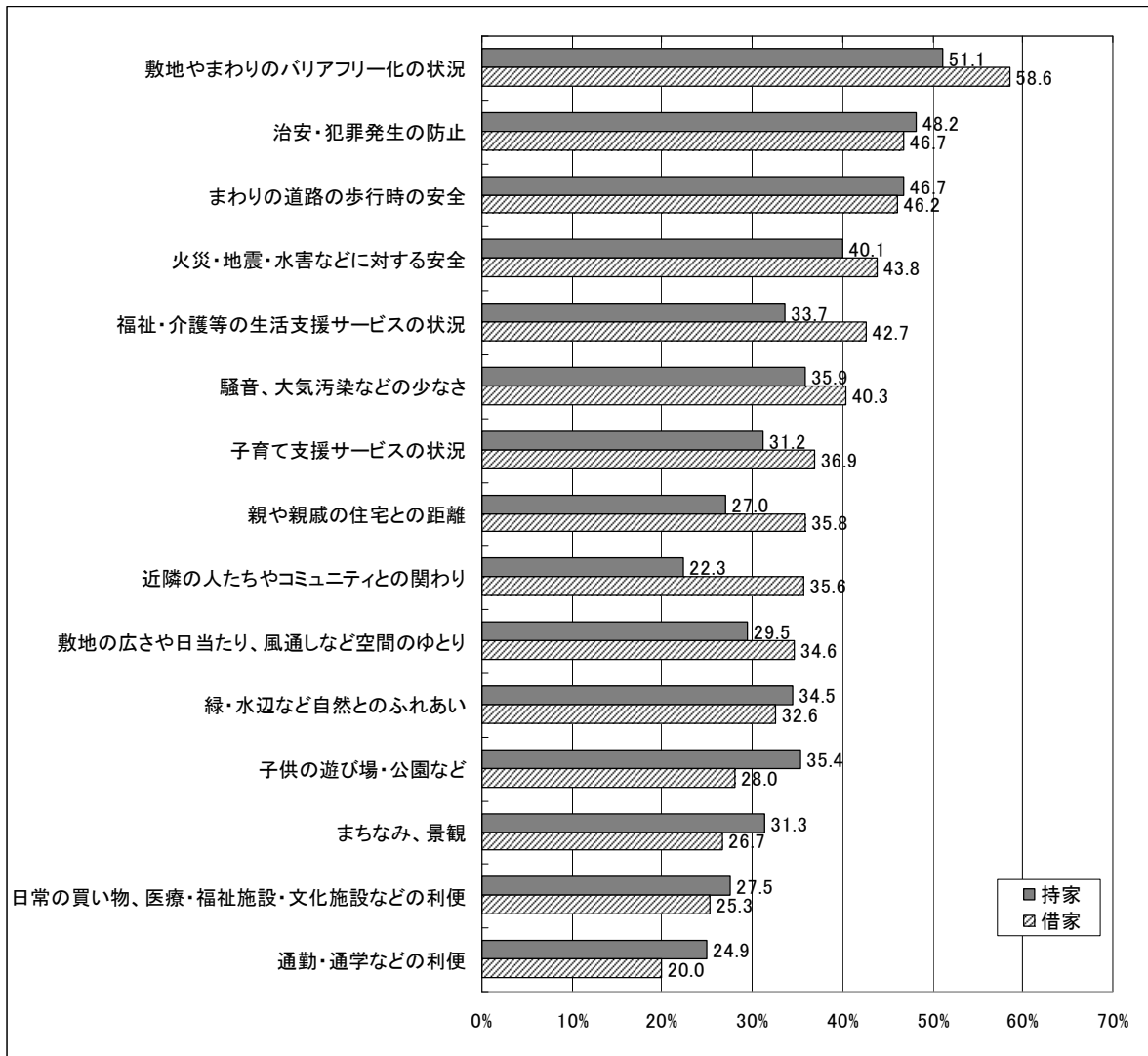
図-23 住環境の各要素に対する不満率(地域別)

| 【平成20年】 | 名古屋市 | 尾張 | 西三河 | 東三河 |
|--------------------------|------|------|------|------|
| 火災・地震・水害などに対する安全 | 44.3 | 43.3 | 30.4 | 42.1 |
| 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 54.8 | 56.8 | 45.7 | 49.2 |
| まわりの道路の歩行時の安全 | 47.1 | 47.2 | 44.9 | 40.6 |
| 治安・犯罪発生の防止 | 48.3 | 51.4 | 43.5 | 35.4 |
| 騒音、大気汚染などの少なさ | 42.0 | 34.7 | 37.0 | 29.9 |
| 通勤・通学などの利便 | 15.0 | 28.2 | 26.1 | 25.4 |
| 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 20.5 | 29.4 | 34.5 | 23.2 |
| 子供の遊び場・公園など | 30.3 | 37.4 | 28.5 | 28.2 |
| 緑・水辺など自然とのふれあい | 38.9 | 34.7 | 29.3 | 19.5 |
| 敷地の広さや日当たり、風通しなど空間のゆとり | 36.8 | 31.1 | 25.7 | 20.0 |
| まちなみ、景観 | 34.7 | 29.3 | 27.5 | 16.9 |
| 親や親戚の住宅との距離 | 33.4 | 31.6 | 25.3 | 20.5 |
| 近隣の人たちやコミュニティとの関わり | 29.4 | 27.4 | 22.9 | 20.6 |
| 福祉・介護等の生活支援サービスの状況 | 35.7 | 38.7 | 35.1 | 34.3 |
| 子育て支援サービスの状況 | 30.7 | 35.8 | 32.0 | 33.9 |

住宅タイプ（所有関係）別にみると、借家では「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」、「福祉・介護等の生活支援サービスの状況」が持家に比べてそれぞれ 13.3 ポイント、9.0 ポイント不満率が高くなっている。一方、「子供の遊び場・公園など」、「通勤・通学などの利便」では、それぞれ 7.4 ポイント、4.9 ポイント持家の方が借家よりも不満率が高くなっている。

(図-24) (表-8)

図-24 住環境の各要素に対する不満率(住宅タイプ別)



不満率の上位3項目について家族型別にみると、多くの家族型（「単身（75歳以上）」、「夫婦のみ（家計を主に支える者が65歳以上）」等を除く）では、「敷地まわりのバリアフリー化の状況」が最も不満率の高い項目となっている。同様に、「治安・犯罪発生防止」、「まわりの道路の歩行時の安全」が多くの家族型で上位3つに挙がっている。

(図-25) (表-9)

図-25 住環境の各要素に対する不満率(家族型別)

| 家族型 | 第1位 | | 第2位 | | 第3位 | |
|-----------------------|-------------------|--------|-------------------|--------|-------------------|--------|
| | 要素 | 不満率(%) | 要素 | 不満率(%) | 要素 | 不満率(%) |
| 単身(35歳未満) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 61.2 | まわりの道路の歩行時の安全 | 56.7 | 治安・犯罪発生防止 | 55.7 |
| 単身(35歳～64歳) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 58.6 | 治安・犯罪発生防止 | 48.7 | まわりの道路の歩行時の安全 | 47.6 |
| 単身(65歳～74歳) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 52.4 | 治安・犯罪発生防止 | 45.1 | 緑・水辺など自然とのふれあい | 41.9 |
| 単身(75歳以上) | 火災・地震・水害などに対する安全 | 37.9 | 治安・犯罪発生防止 | 34.6 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 34.5 |
| 夫婦のみ(家計を主に支える者が65歳未満) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 57.1 | まわりの道路の歩行時の安全 | 52.4 | 治安・犯罪発生防止 | 52.4 |
| 夫婦のみ(家計を主に支える者が65歳以上) | 治安・犯罪発生防止 | 47.3 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 44.7 | まわりの道路の歩行時の安全 | 40.4 |
| 親と子(長子5歳以下) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 48.8 | まわりの道路の歩行時の安全 | 48.7 | 治安・犯罪発生防止 | 43.9 |
| 親と子(長子6～11歳) | まわりの道路の歩行時の安全 | 55.5 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 52.7 | 治安・犯罪発生防止 | 46.3 |
| 親と子(長子12～17歳) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 60.4 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 50.3 | 治安・犯罪発生防止 | 47.9 |
| 親と子(長子18～24歳) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 58.9 | 治安・犯罪発生防止 | 51.3 | まわりの道路の歩行時の安全 | 49.0 |
| 親と子(長子25歳以上) | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 49.0 | 治安・犯罪発生防止 | 46.4 | まわりの道路の歩行時の安全 | 44.2 |
| 三世代世帯 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 60.2 | 治安・犯罪発生防止 | 50.7 | まわりの道路の歩行時の安全 | 48.4 |
| 複合世帯 | まわりの道路の歩行時の安全 | 57.8 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 57.4 | 子供の遊び場・公園など | 48.9 |
| 県全体 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 53.6 | 治安・犯罪発生防止 | 47.6 | まわりの道路の歩行時の安全 | 46.2 |

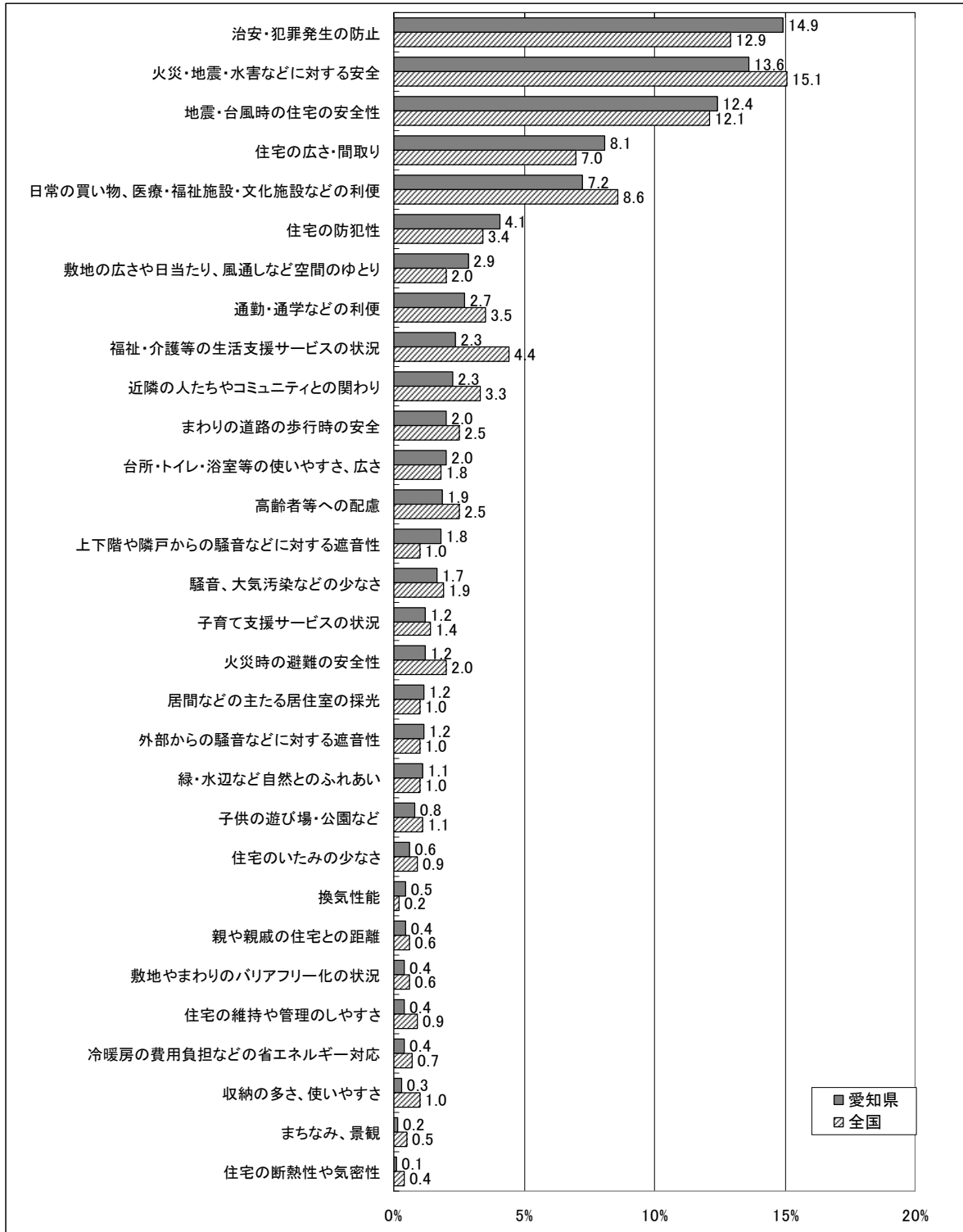
(4) 住まいにおいて重要と思う点(新設)

①愛知県と全国との比較

愛知県では、住まいにおいて最も重要と思う点として、「治安・犯罪発生の防止」が14.9%と最も多く、次いで「火災・地震・水害などに対する安全」(13.6%)、「地震・台風時の住宅の安全性」(12.4%)の順となっている。これらの項目は全国においても上位3つに挙がっている。

(図-26) (表-10)

図-26 住まいにおいて最も重要と思う点



②地域別の比較

住まいにおいて最も重要と思う点について地域別にみると、上位 5 項目が共通しているが、名古屋市及び尾張では「治安・犯罪発生の防止」が最上位に挙げられている一方、西三河では「地震・台風時の住宅の安全性」、東三河では「住宅の広さ・間取り」が最上位に挙げられているなど、項目の序列は地域によって差異がみられる。

(図-27) (表-10)

図-27 地域別、住まいにおいて最も重要と思う点(上位 10 項目)

| 名古屋市 | | |
|------|--------------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 治安・犯罪発生の防止 | 14.7 |
| 2位 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 12.7 |
| 3位 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 12.1 |
| 4位 | 住宅の広さ・間取り | 9.2 |
| 5位 | 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 9.0 |
| 6位 | 住宅の防犯性 | 4.0 |
| 7位 | 通勤・通学などの利便 | 3.0 |
| 8位 | 近隣の人たちやコミュニティとの関わり | 2.7 |
| 9位 | 居間などの主たる居住室の採光 | 2.4 |
| 10位 | 敷地の広さや日当たり、風通しなど空間のゆとり | 2.2 |

| 尾張 | | |
|-----|--------------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 治安・犯罪発生の防止 | 16.6 |
| 2位 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 15.5 |
| 3位 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 12.5 |
| 4位 | 住宅の広さ・間取り | 6.5 |
| 5位 | 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 5.3 |
| 6位 | 住宅の防犯性 | 4.4 |
| 7位 | 通勤・通学などの利便 | 3.3 |
| 8位 | 福祉・介護等の生活支援サービスの状況 | 3.2 |
| 9位 | 敷地の広さや日当たり、風通しなど空間のゆとり | 3.2 |
| 10位 | 高齢者等への配慮 | 2.6 |

| 西三河 | | |
|-----|--------------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 14.6 |
| 2位 | 治安・犯罪発生の防止 | 13.8 |
| 3位 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 13.4 |
| 4位 | 住宅の広さ・間取り | 8.5 |
| 5位 | 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 8.3 |
| 6位 | 敷地の広さや日当たり、風通しなど空間のゆとり | 4.3 |
| 7位 | 上下階や隣戸からの騒音などに対する遮音性 | 4.1 |
| 8位 | 台所・トイレ・浴室等の使いやすさ、広さ | 3.6 |
| 9位 | まわりの道路の歩行時の安全 | 3.3 |
| 10位 | 住宅の防犯性 | 3.1 |

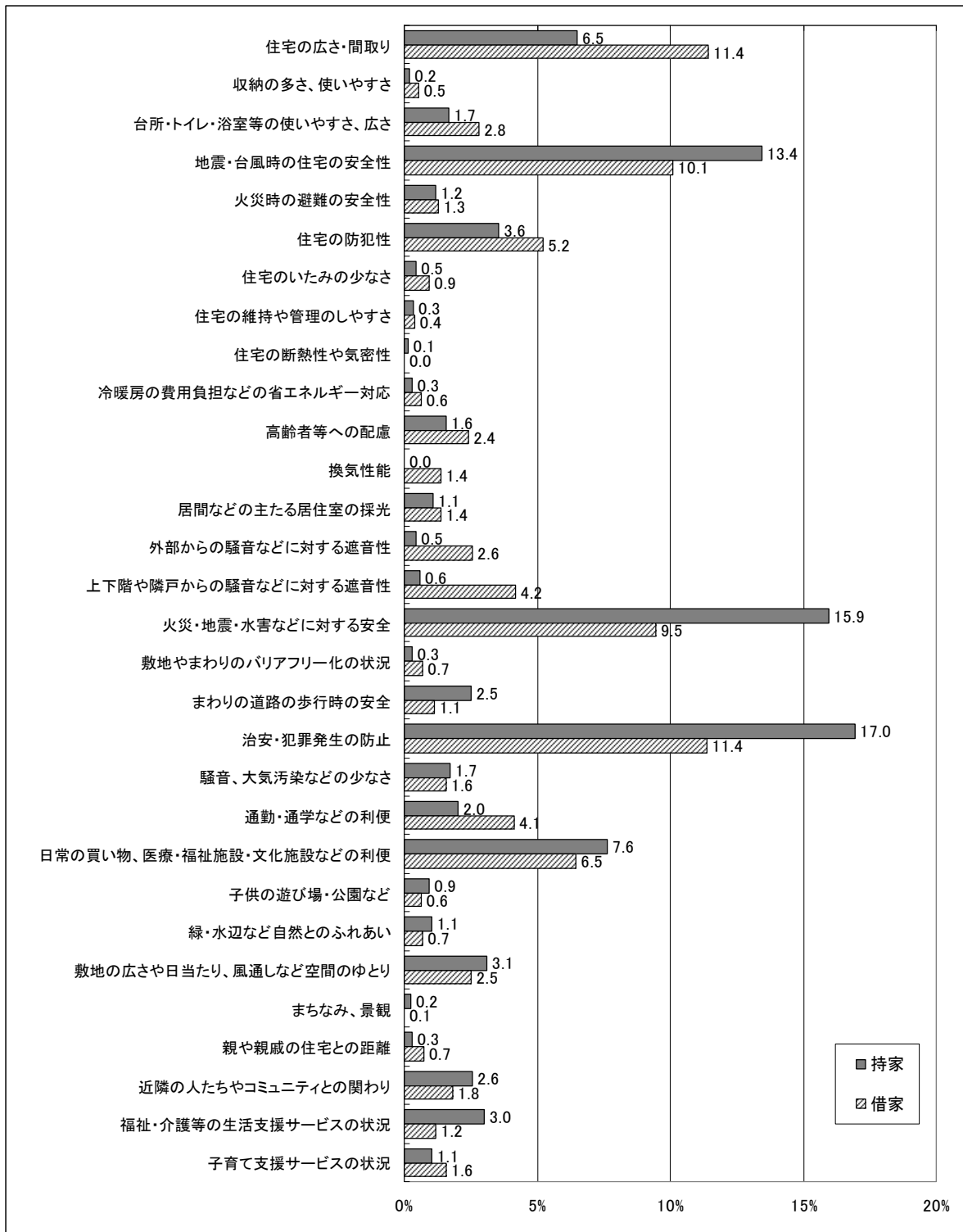
| 東三河 | | |
|-----|--------------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 住宅の広さ・間取り | 10.6 |
| 2位 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 10.3 |
| 3位 | 治安・犯罪発生の防止 | 10.0 |
| 4位 | 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 7.8 |
| 5位 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 6.5 |
| 6位 | 住宅の防犯性 | 4.6 |
| 7位 | 福祉・介護等の生活支援サービスの状況 | 4.4 |
| 8位 | 住宅のいたみの少なさ | 4.2 |
| 9位 | 外部からの騒音などに対する遮音性 | 3.2 |
| 10位 | 通勤・通学などの利便 | 3.2 |

③住宅タイプ別の比較

住まいにおいて最も重要と思う点を住宅タイプ（持家・借家）別にみると、借家では「住宅の広さ・間取り」が持家に比べて多くなっている。一方、持家では「治安・犯罪発生の防止」、「火災・地震・水害などに対する安全」、「地震・台風時の住宅の安全性」がいずれも借家よりも高い割合を示している。

(図-28) (表-11)

図-28 住まいにおいて最も重要と思う点(住宅タイプ別)



④家族型別の比較

家族型別にみると、長子が24歳以下の「親と子」世帯では「治安・犯罪発生防止」が最も重要と思う項目として割合が最も高くなっている点で共通性がみられる。他の家族型（ただし、「単身（35歳未満）」を除く）ではいずれも「地震・台風時の住宅の安全性」や「火災・地震・水害に対する安全性」が上位3項目として挙げられている。一方、「単身（35歳未満）」や長子が24歳以下の「親と子」世帯、「単身（75歳以上）」では「住宅の広さ・間取り」が上位3項目の中に挙げられている。

(図-29) (表-12)

図-29 住まいにおいて最も重要と思う点(家族型別)

| 家族型 | 第1位 | | 第2位 | | 第3位 | |
|---------------------|------------------|------|------------------|------|--------------------------|------|
| | 項目 | (%) | 項目 | (%) | 項目 | (%) |
| 単身(35歳未満) | 住宅の広さ・間取り | 22.1 | 通勤・通学などの利便 | 16.4 | 治安・犯罪発生防止 | 11.7 |
| 単身(35歳～64歳) | 地震・台風時の住宅の安全性 | 12.2 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 11.2 | 治安・犯罪発生防止 | 9.7 |
| 単身(65歳～74歳) | 治安・犯罪発生防止 | 14.7 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 8.4 | 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 8.4 |
| 単身(75歳以上) | 火災・地震・水害などに対する安全 | 16.5 | 住宅の広さ・間取り | 13.1 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 8.8 |
| 夫婦(家計を主に支える者が65歳未満) | 治安・犯罪発生防止 | 17.8 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 17.8 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 11.8 |
| 夫婦(家計を主に支える者が65歳以上) | 地震・台風時の住宅の安全性 | 18.0 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 10.7 | 治安・犯罪発生防止 | 10.5 |
| 親と子(長子5歳以下) | 治安・犯罪発生防止 | 17.7 | 住宅の広さ・間取り | 13.2 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 9.2 |
| 親と子(長子6～11歳) | 治安・犯罪発生防止 | 28.4 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 18.9 | 住宅の広さ・間取り | 10.9 |
| 親と子(長子12～17歳) | 治安・犯罪発生防止 | 21.3 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 16.0 | 住宅の広さ・間取り | 12.7 |
| 親と子(長子18～24歳) | 治安・犯罪発生防止 | 23.0 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 10.5 | 住宅の広さ・間取り | 9.2 |
| 親と子(長子25歳以上) | 火災・地震・水害などに対する安全 | 20.3 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 16.5 | 治安・犯罪発生防止 | 12.0 |
| 三世帯世帯 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 21.0 | 治安・犯罪発生防止 | 14.2 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 12.1 |
| 複合世帯 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 20.7 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 15.2 | 治安・犯罪発生防止 | 14.2 |
| 県全体 | 治安・犯罪発生防止 | 14.9 | 火災・地震・水害などに対する安全 | 13.6 | 地震・台風時の住宅の安全性 | 12.4 |

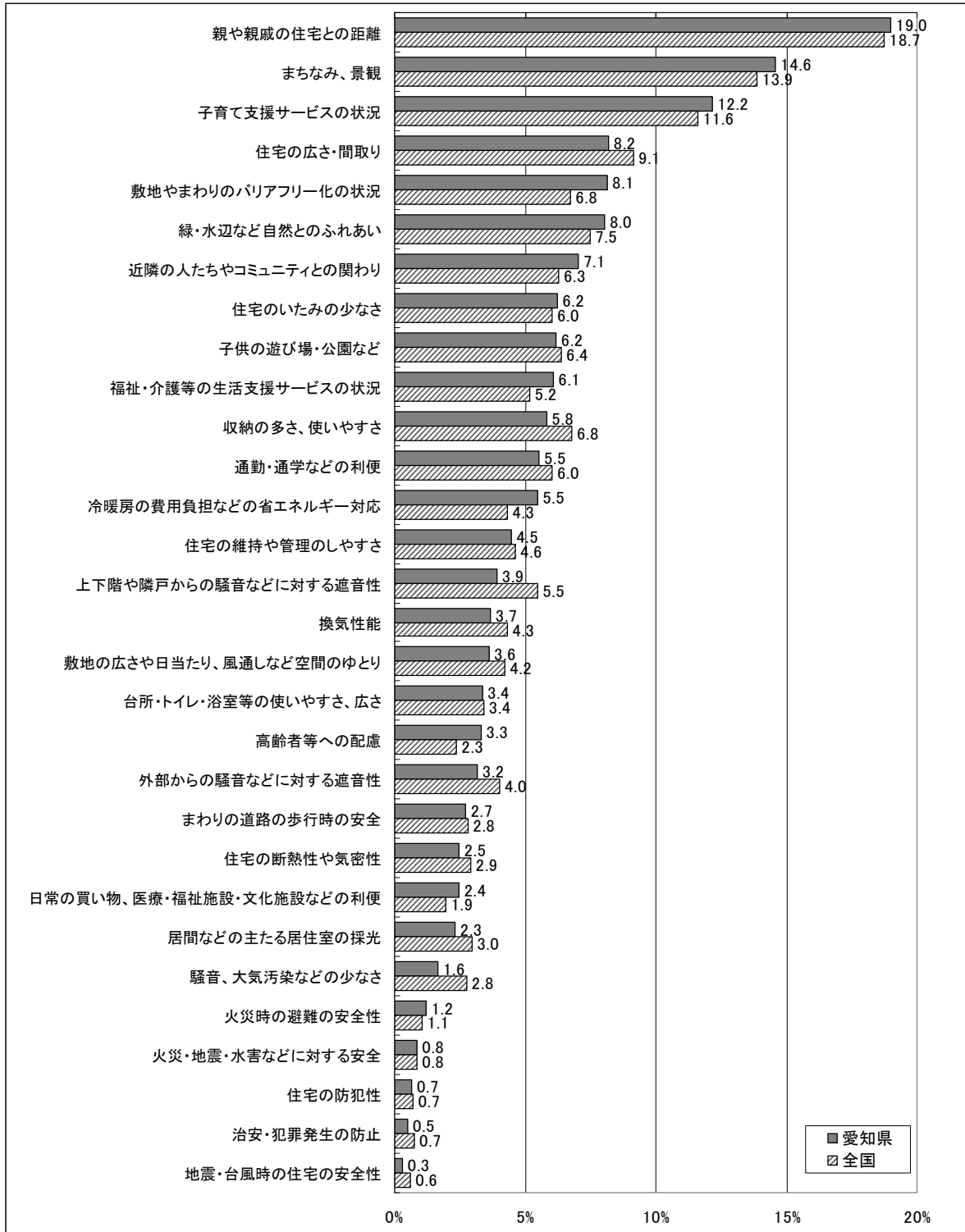
(5) 住まいにおいて重要と思わない点(新設)

①愛知県と全国との比較

愛知県では、住まいにおいて重要と思わない点として、「親や親戚の住宅との距離」が19.0%と最も多く、次いで「まちなみ、景観」(14.6%)、「子育て支援サービスの状況」(12.2%)の順となっている。全国においても同じ項目が上位3つに挙がっており、順位も同様である。

(図-30) (表-13)

図-30 住まいにおいて最も重要と思わない点



②地域別の比較

住まいにおいて重要と思わない点について地域別にみると、いずれの地域も「親や親戚の住宅との距離」が最上位に挙げられている。2位以下については地域ごとに順位の差異がみられるが、「まちなみ、景観」と「子育て支援サービスの状況」がいずれの地域も上位5位以内に入っている点が共通している。

(図-31) (表-13)

図-31 地域別、住まいにおいて最も重要と思わない点(上位10項目)

| 名古屋市 | | |
|------|--------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 親や親戚の住宅との距離 | 19.7 |
| 2位 | まちなみ、景観 | 15.4 |
| 3位 | 子育て支援サービスの状況 | 13.7 |
| 4位 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 7.2 |
| 5位 | 住宅の広さ・間取り | 7.1 |
| 6位 | 住宅のいたみの少なさ | 7.0 |
| 7位 | 近隣の人たちやコミュニティとの関わり | 6.6 |
| 8位 | 緑・水辺など自然とのふれあい | 6.5 |
| 9位 | 子供の遊び場・公園など | 6.3 |
| 10位 | 通勤・通学などの利便 | 6.3 |

| 尾張 | | |
|-----|--------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 親や親戚の住宅との距離 | 18.4 |
| 2位 | まちなみ、景観 | 15.4 |
| 3位 | 子育て支援サービスの状況 | 12.9 |
| 4位 | 住宅の広さ・間取り | 10.8 |
| 5位 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 10.1 |
| 6位 | 緑・水辺など自然とのふれあい | 8.2 |
| 7位 | 近隣の人たちやコミュニティとの関わり | 7.0 |
| 8位 | 福祉・介護等の生活支援サービスの状況 | 6.7 |
| 9位 | 住宅のいたみの少なさ | 6.6 |
| 10位 | 収納の多さ、使いやすさ | 6.4 |

| 西三河 | | |
|-----|--------------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 親や親戚の住宅との距離 | 23.7 |
| 2位 | まちなみ、景観 | 16.0 |
| 3位 | 緑・水辺など自然とのふれあい | 12.7 |
| 4位 | 近隣の人たちやコミュニティとの関わり | 10.1 |
| 5位 | 子育て支援サービスの状況 | 9.5 |
| 6位 | 子供の遊び場・公園など | 7.8 |
| 7位 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 7.7 |
| 8位 | 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 7.6 |
| 9位 | 住宅の広さ・間取り | 7.6 |
| 10位 | 敷地の広さや日当たり、風通しなど空間のゆとり | 7.1 |

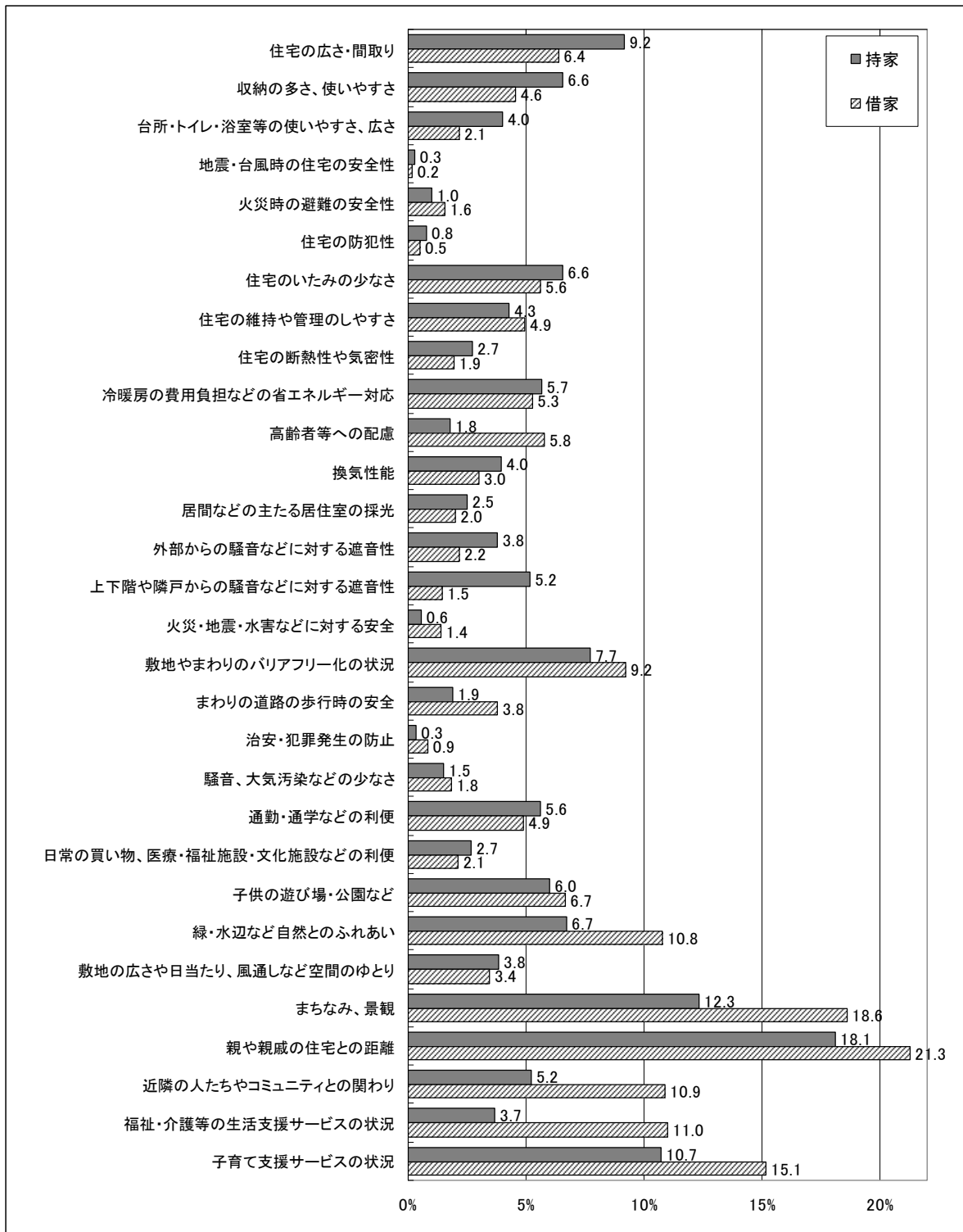
| 東三河 | | |
|-----|--------------------------|--------|
| 順位 | 項目 | 選択率(%) |
| 1位 | 親や親戚の住宅との距離 | 9.5 |
| 2位 | 子育て支援サービスの状況 | 8.3 |
| 3位 | 福祉・介護等の生活支援サービスの状況 | 5.0 |
| 4位 | まちなみ、景観 | 4.2 |
| 5位 | 日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便 | 4.2 |
| 6位 | 子供の遊び場・公園など | 4.0 |
| 7位 | 緑・水辺など自然とのふれあい | 3.6 |
| 8位 | 騒音、大気汚染などの少なさ | 3.5 |
| 9位 | 敷地やまわりのバリアフリー化の状況 | 3.3 |
| 10位 | 近隣の人たちやコミュニティとの関わり | 3.1 |

③住宅タイプ別の比較

住まいにおいて重要と思わない点について住宅タイプ（持家・借家）別にみると、全体的な回答傾向は概ね一致しているが、「まちなみ、景観」、「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」、「福祉・介護等の生活支援サービスの状況」では持家に比べて借家の割合が 5.0 ポイント以上高くなっている。

(図-32) (表-14)

図-32 住まいにおいて重要と思わない点(住宅タイプ別)



④家族型別の比較

家族型別にみると、全ての家族型で「親や親戚の住宅との距離」が「重要と思わない点」の上位3項目に挙がっている。また、「単身（75歳以上）」及び「親と子（長子6～11歳）」以外の世帯では、いずれも「まちなみ、景観」が「重要と思わない点」上位3項目に挙がっている。

(図-33) (表-15)

図-33 住まいにおいて重要と思わない点(家族型別)

| 家族型 | 第1位 | | 第2位 | | 第3位 | |
|---------------------|--------------|-------|--------------------|-------|---------------------|-------|
| | 項目 | 割合(%) | 項目 | 割合(%) | 項目 | 割合(%) |
| 単身(35歳未満) | 親や親戚の住宅との距離 | 24.6 | 子育て支援サービスの状況 | 20.8 | まちなみ、景観 | 18.7 |
| 単身(35歳～64歳) | 親や親戚の住宅との距離 | 24.8 | 近隣の人たちやコミュニティとの関わり | 19.4 | まちなみ、景観 | 18.3 |
| 単身(65歳～74歳) | 親や親戚の住宅との距離 | 17.1 | 子育て支援サービスの状況 | 15.1 | まちなみ、景観 | 12.1 |
| 単身(75歳以上) | 子供の遊び場・公園など | 8.3 | 子育て支援サービスの状況 | 7.7 | 親や親戚の住宅との距離 | 7.4 |
| 夫婦(家計を主に支える者が65歳未満) | 親や親戚の住宅との距離 | 25.3 | まちなみ、景観 | 18.1 | 緑・水辺など自然とのふれあい | 14.6 |
| 夫婦(家計を主に支える者が65歳以上) | 子育て支援サービスの状況 | 17.1 | 親や親戚の住宅との距離 | 14.1 | まちなみ、景観 | 11.5 |
| 親と子(長子5歳以下) | まちなみ、景観 | 18.2 | 親や親戚の住宅との距離 | 18.1 | 福祉・介護等の生活支援サービスの状況 | 16.4 |
| 親と子(長子6～11歳) | 親や親戚の住宅との距離 | 14.7 | 子育て支援サービスの状況 | 12.4 | 冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応 | 11.2 |
| 親と子(長子12～17歳) | 親や親戚の住宅との距離 | 16.2 | まちなみ、景観 | 15.0 | 子育て支援サービスの状況 | 14.7 |
| 親と子(長子18～24歳) | まちなみ、景観 | 19.1 | 親や親戚の住宅との距離 | 18.7 | 子育て支援サービスの状況 | 12.9 |
| 親と子(長子25歳以上) | 親や親戚の住宅との距離 | 18.5 | まちなみ、景観 | 14.0 | 住宅の広さ・間取り | 11.5 |
| 三世代世帯 | 親や親戚の住宅との距離 | 21.8 | まちなみ、景観 | 12.5 | 住宅のいたみの少なさ | 10.4 |
| 複合世帯 | 親や親戚の住宅との距離 | 12.5 | まちなみ、景観 | 10.9 | 緑・水辺など自然とのふれあい | 10.6 |
| 県全体 | 親や親戚の住宅との距離 | 19.0 | まちなみ、景観 | 14.6 | 子育て支援サービスの状況 | 12.2 |